



写真図版

Ⅱ区 第Ⅵ面 151・153 橋脚 図面作成状況（東北東から）



Ⅱ区 第Ⅵ面 151 橋脚 検出状況（南から）



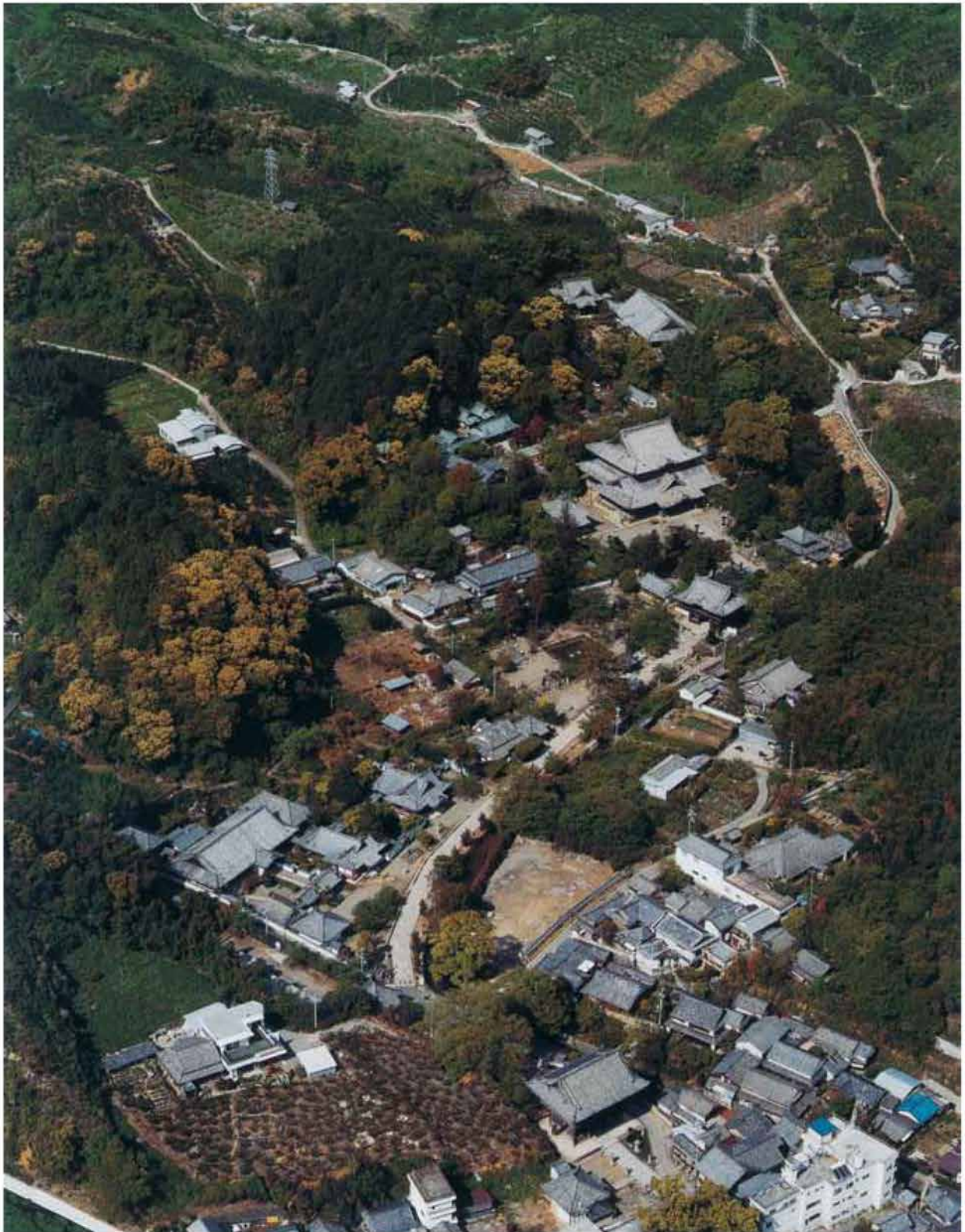
Ⅱ区 第Ⅵ面 154 木杭列 検出状況（西から）



Ⅱ区 第Ⅲ面 111 塀基礎・112 犬走り 検出状況（東北東から）



Ⅱ区 第Ⅲ面 111 塀基礎・112 犬走り 図面作成状況（北西から）



＜略図＞

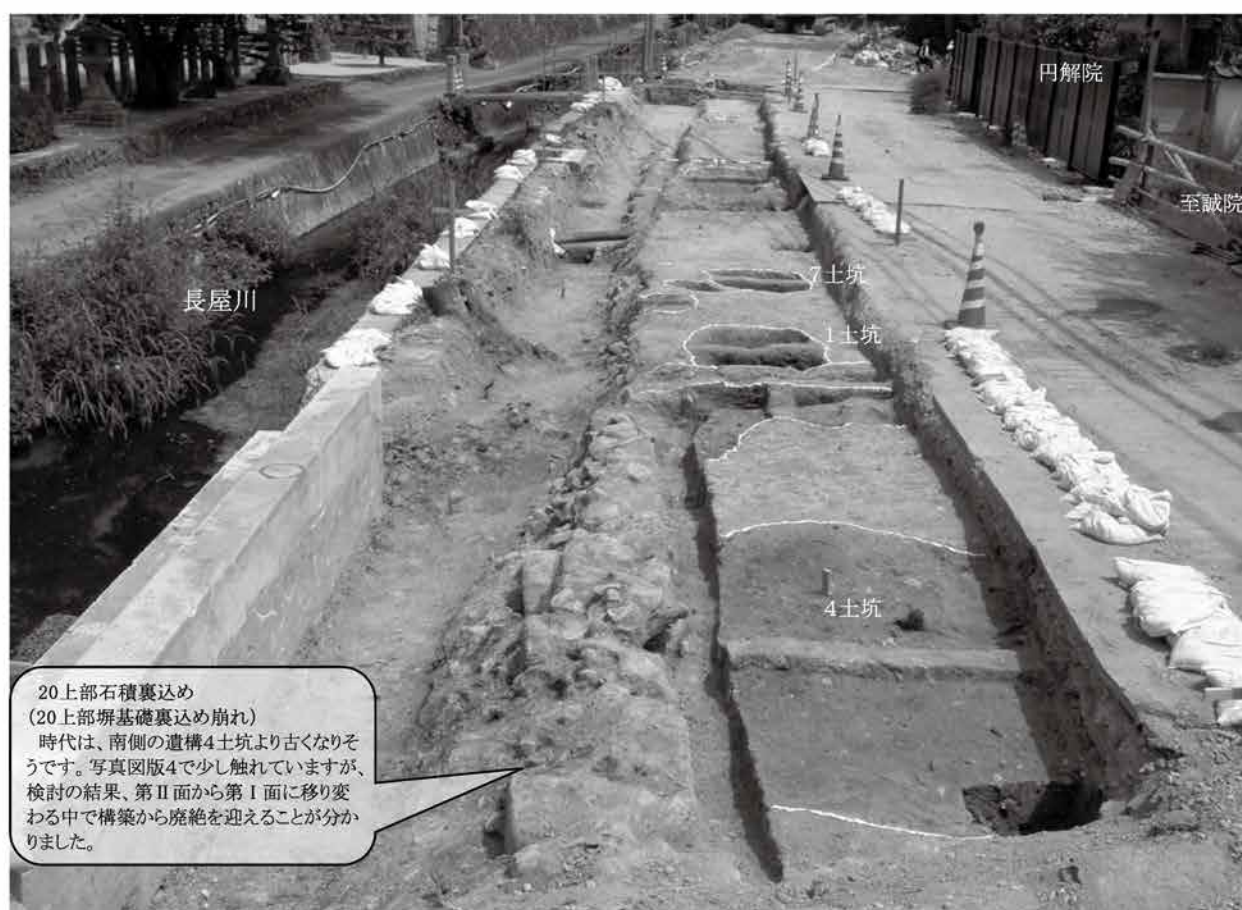
宗教法人粉河寺『重要文化財 粉河寺大門 修理工事報告書』2002.09
 (編集)財団法人和歌山県文化財センター (発行)宗教法人粉河寺 から転載



1 I・II区 調査前の状況(長屋川2号橋から調査地を望む)(西南西から)



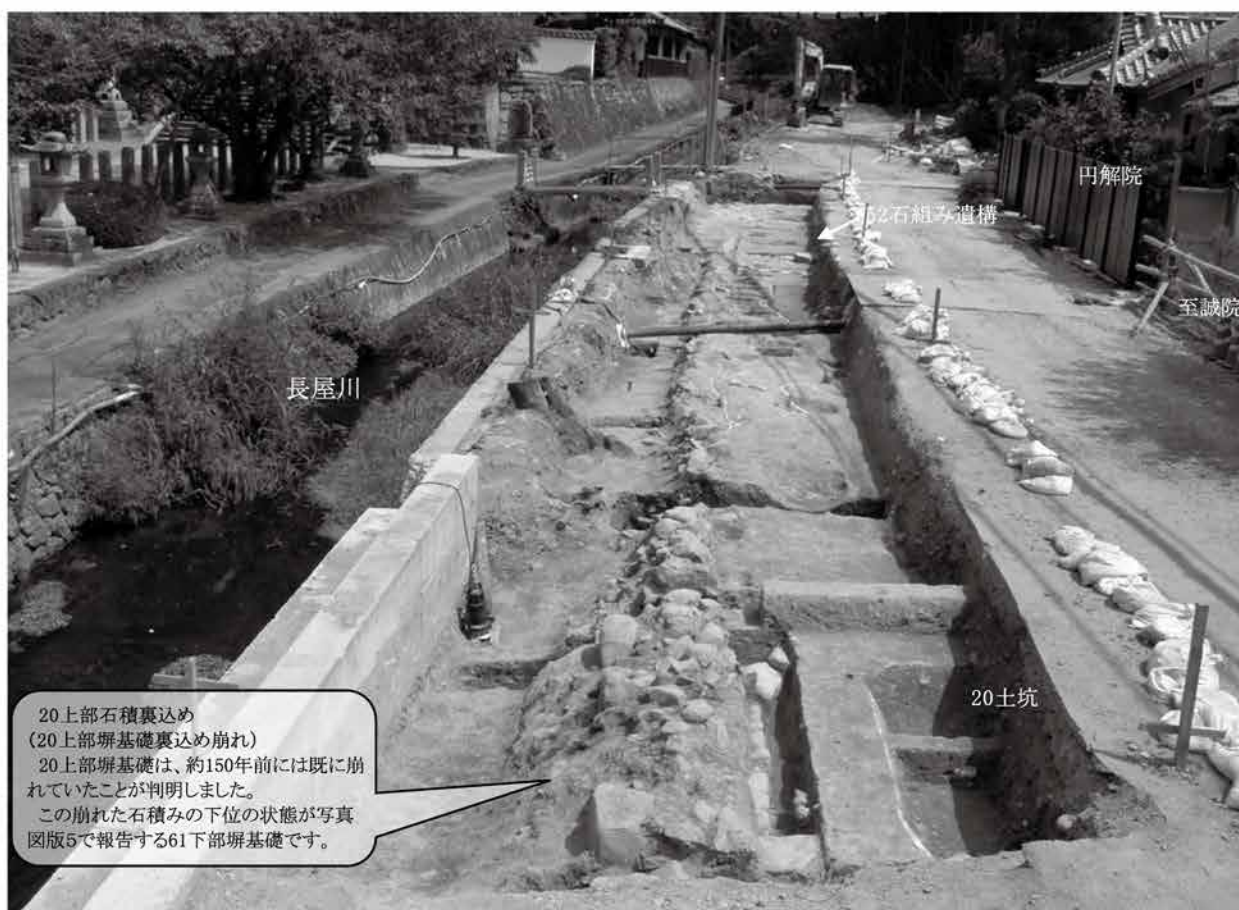
2 I・II区の発掘調査位置(西南西から)
粉河寺本堂・中門と長屋川、そして今回の発掘調査を行った位置関係



1 I 区 第I面遺構全景(西南西から)
第I面では、整地土の層序関係と出土遺物から、江戸時代後期からそれ以後の生活の跡を検出したと考えられます。

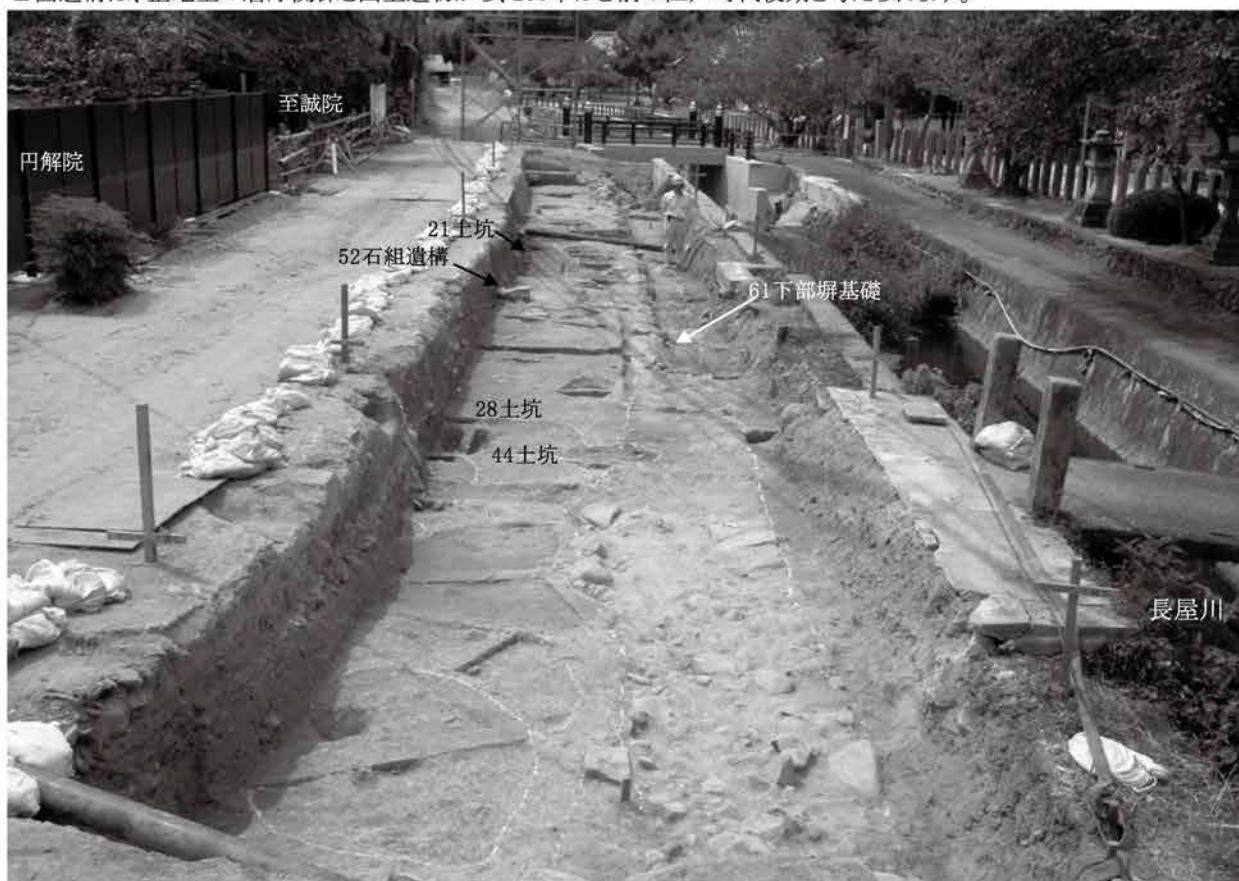


2 I 区 第I面遺構全景(東北東から)



1 I 区 第Ⅱ面遺構全景(西南西から)

検討の結果、崩れた状態の石積みは、本来は第Ⅱ面遺構を検出する時には取り除く必要のあったことが判明しました。第Ⅱ面遺構は、整地土の層序関係と出土遺物から、200年ほど前の江戸時代後期と考えられます。



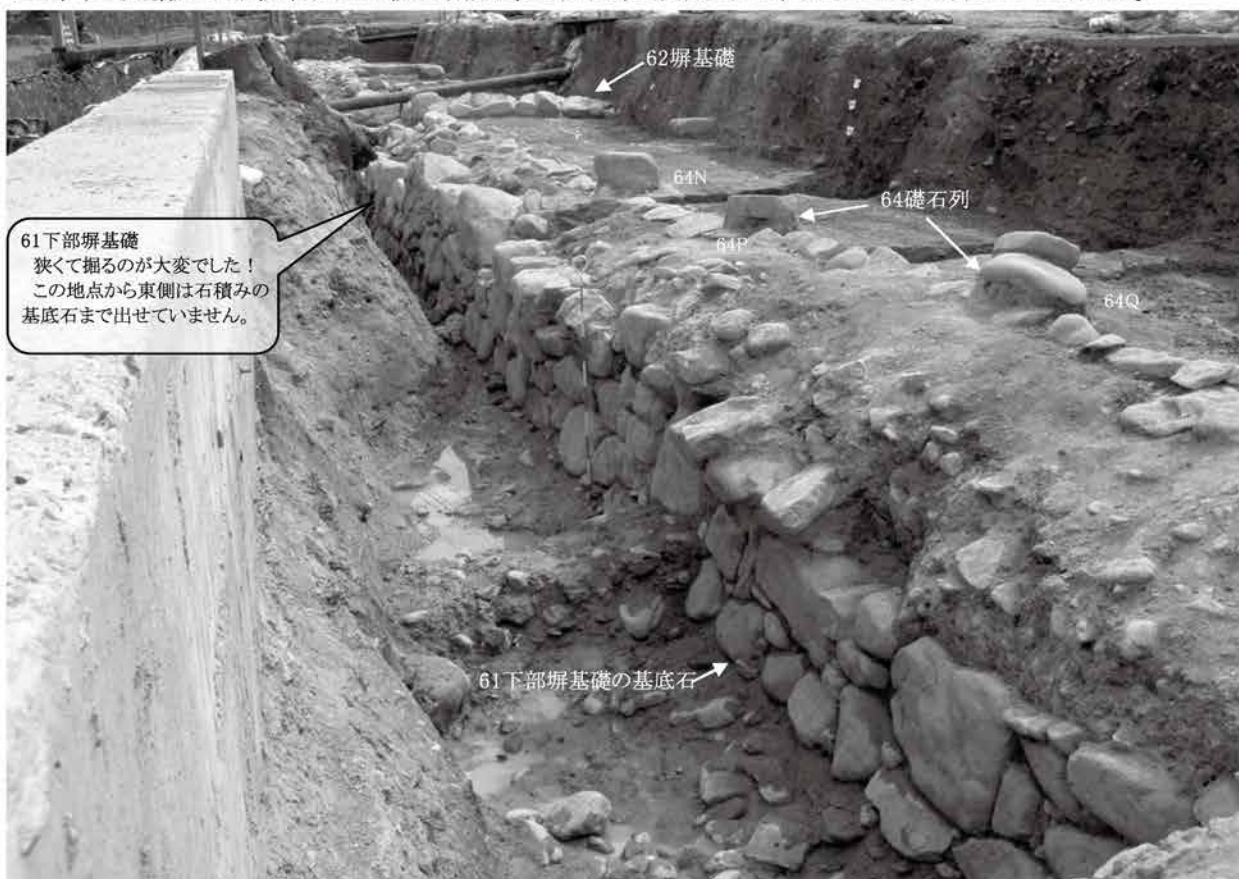
2 I 区 第Ⅱ面遺構全景(東北東から)

調査地の中央から東側にかけては、写真図版5で報告する下位に位置する61下部塀基礎の一部がのぞかせています。調査範囲の東側半分は、昭和40年代まで存在した土塀基礎の構築時に20上部塀基礎の一部が壊されていたようです。



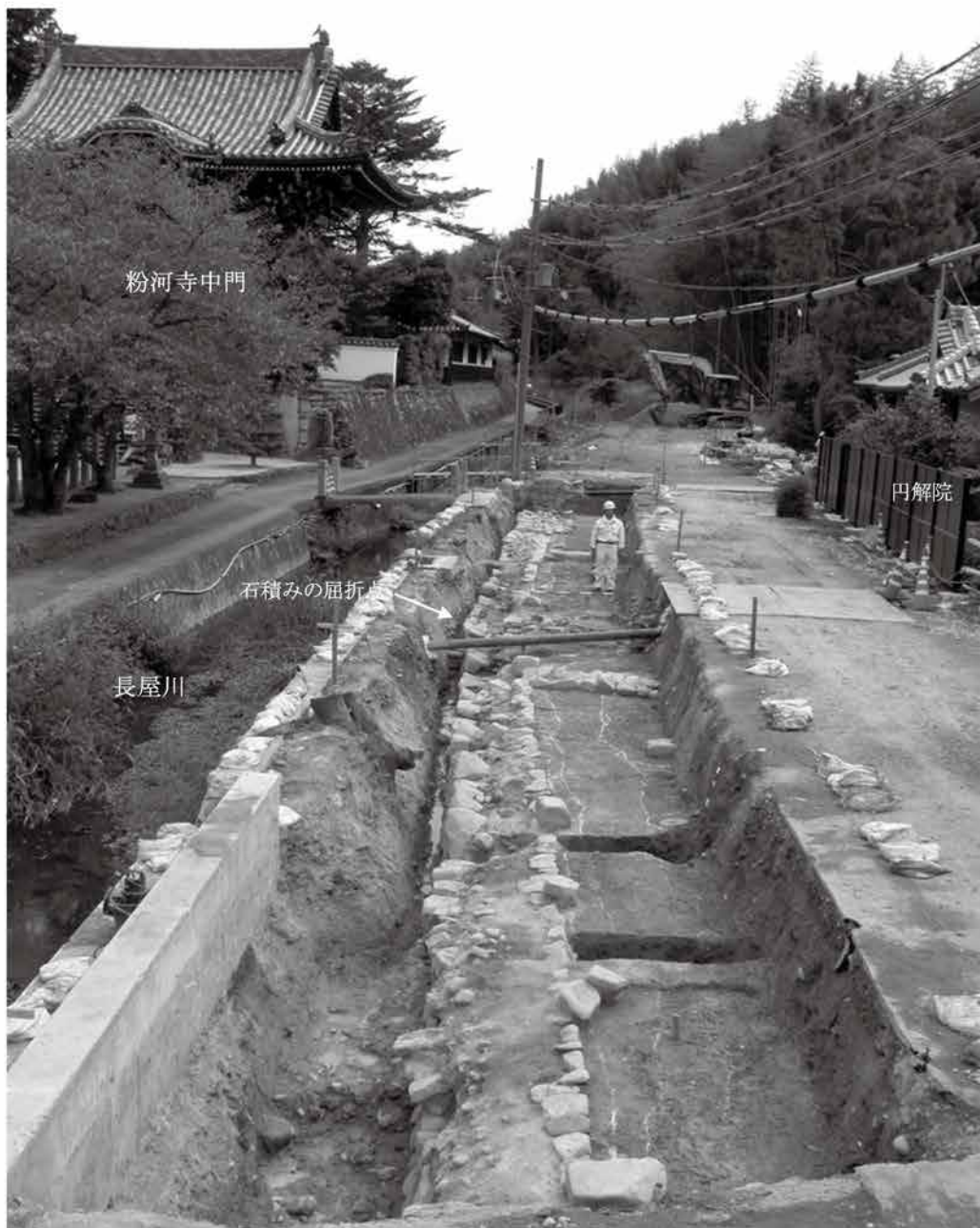
1 I 区 第三面遺構全景(西南西から)

61下部塀基礎は東西に続き、途中で寺院の敷地を分ける南北の62塀基礎も確認できました。江戸時代中頃(約250年前)には、今の円解院と至誠院(当時の寺院の名前は、宝泉寺か)の区画が少しずれていたことが明らかになりました。



2 I 区 第三面61下部塀基礎を斜め横から見た状態(西から)

第三面遺構の61下部塀基礎が造られた当時は、川側の石積みの天端も南側の石列と同じ高さまであったようですが、ずいぶん抜け落ちてしまったようです。一番下の基底石は、現在の長屋川の川底と同じ深さにあります。



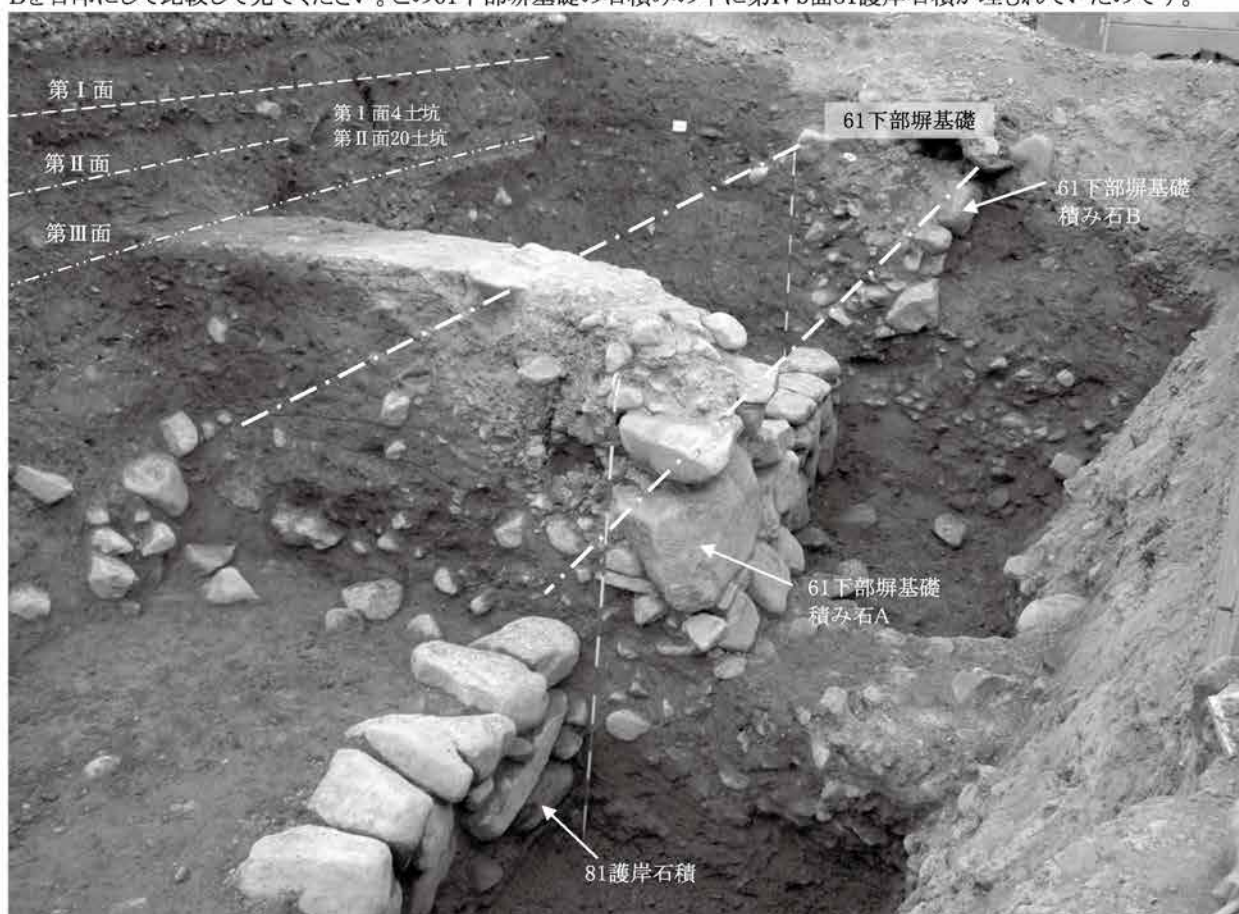
1 I 区 第Ⅲ面遺構全景(西南西から) 粉河寺中門との位置関係



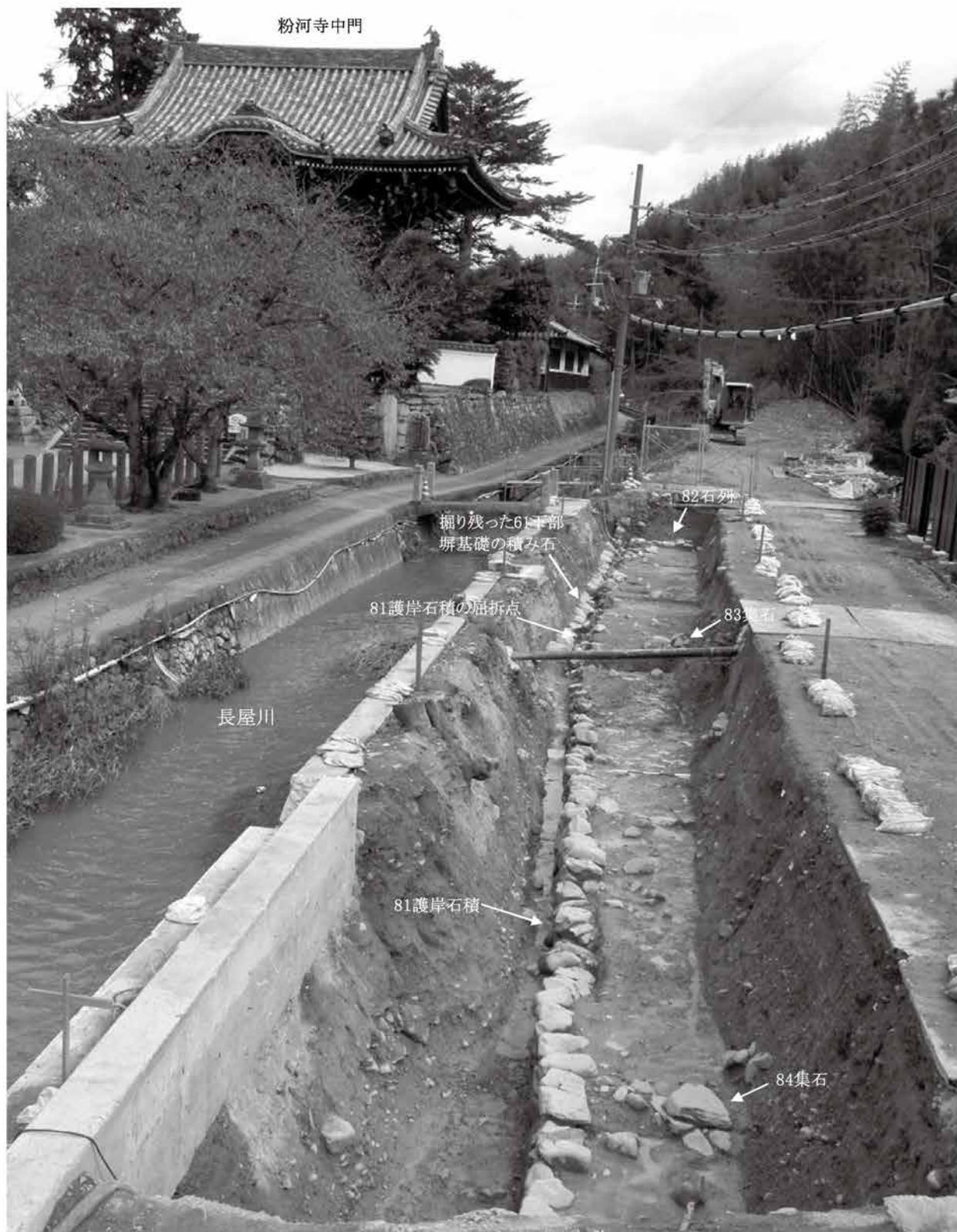
2 I 区 第Ⅲ面遺構全景(東北東から)



1 I 区 第三面61下部塀基礎を斜め横から見た状態(北東から)
写真図版5-2の61下部塀基礎を斜め横逆方向から見た状態です。下の写真の第三面 61下部塀基礎の積み石Aと積み石Bを目印にして比較して見てください。この61下部塀基礎の石積みの中に第四b面81護岸石積が埋もれていたのです。



2 I 区 第三面61下部塀基礎と第四b面81護岸石積との関係(北東から)
第三面61下部塀基礎の積み石を取り除いて下位にある第四b面遺構の調査をしました。写真図版8で報告する第四b面81護岸石積の東側は、61下部塀基礎を造る時にかなり壊されていたようですが、西側の81護岸石積はよく残っています。



1 I 区 第IVb面遺構全景(西南西から)

第Ⅲ面61下部塀基礎の石積みの下に埋もれていた室町時代の第IVb面81護岸石積の全容が明確になりました。現在の地表面から約2m下になり、写真図版5・6で報告した江戸時代の61下部塀基礎の深さと比べるとずいぶん深くなりました。



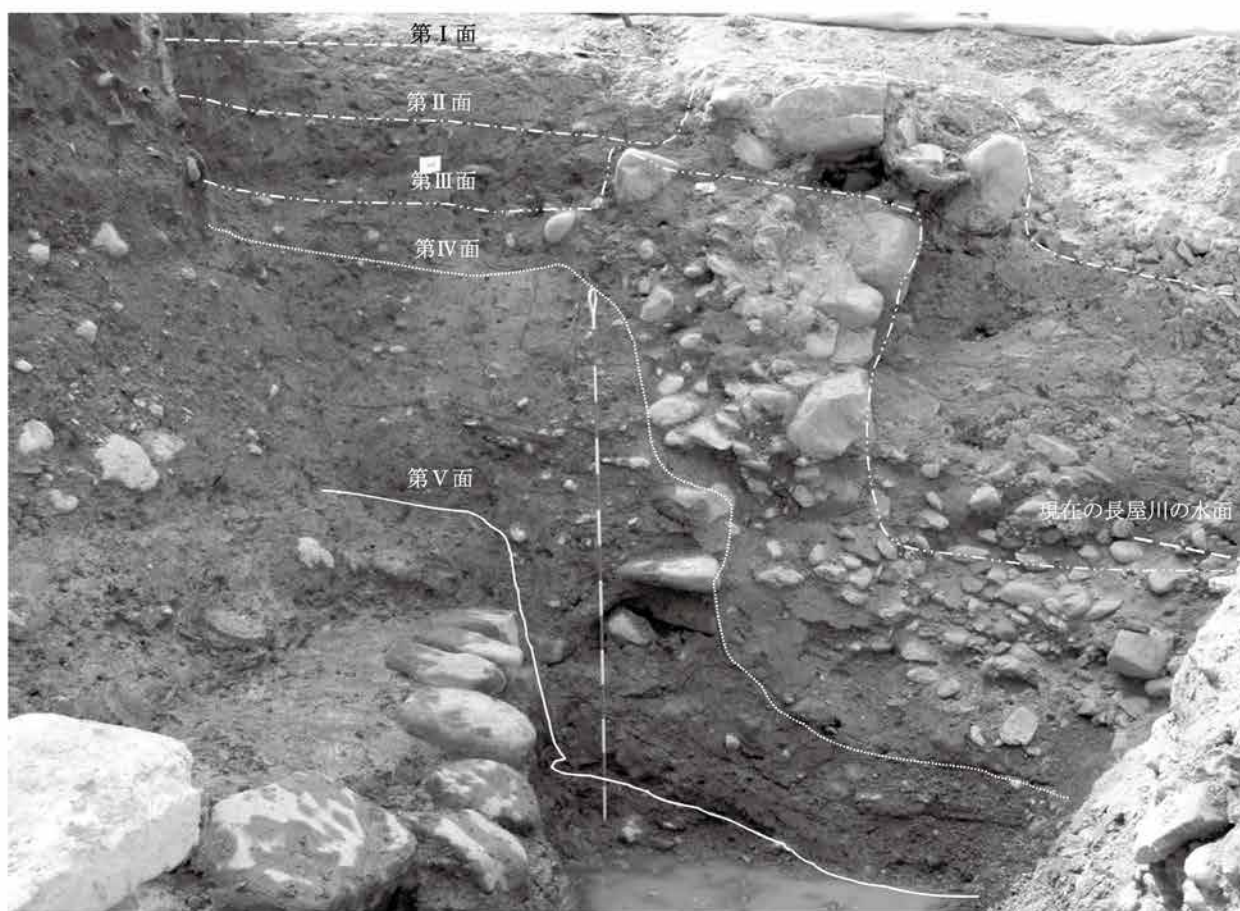
2 西端を斜め横から見た状態(北東から)



3 西端を斜め横から見た状態(西から)

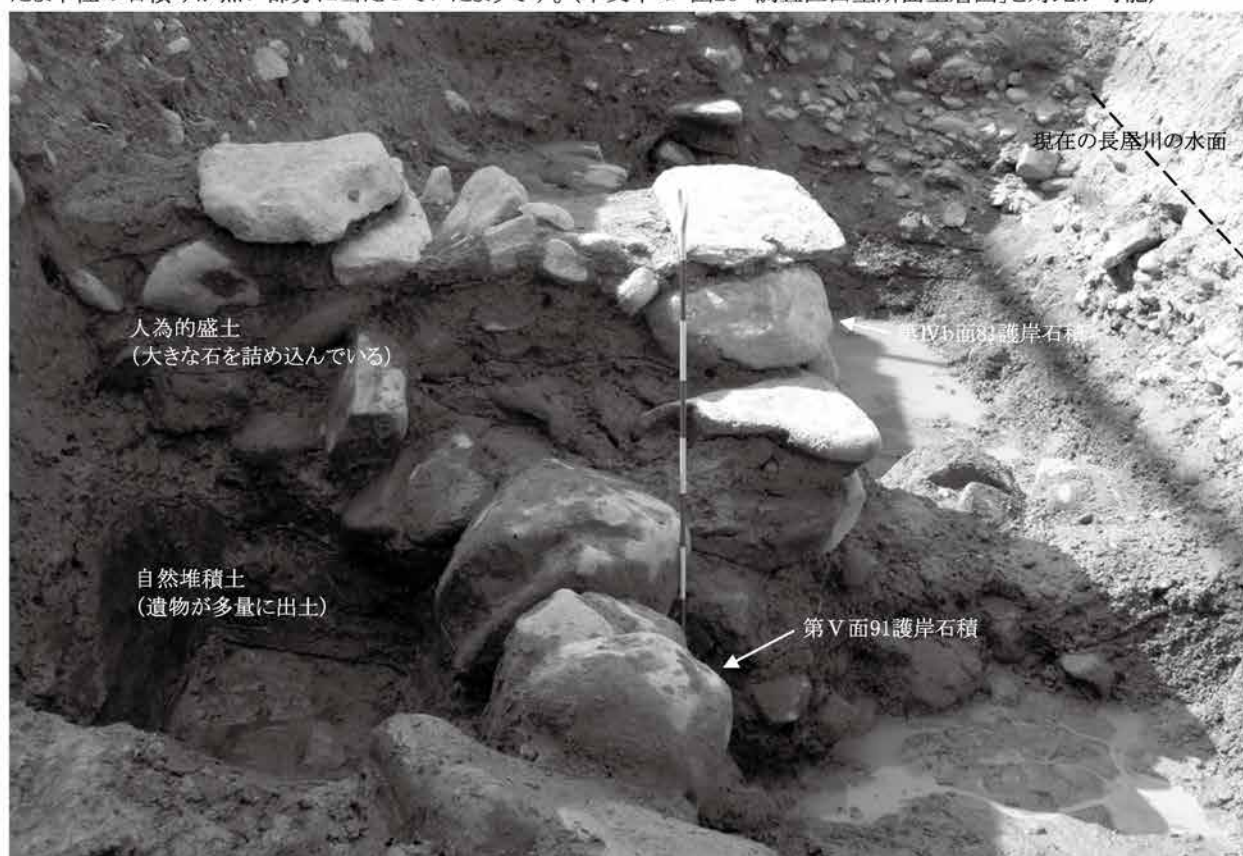


4 東半部の護岸石積(東北東から)



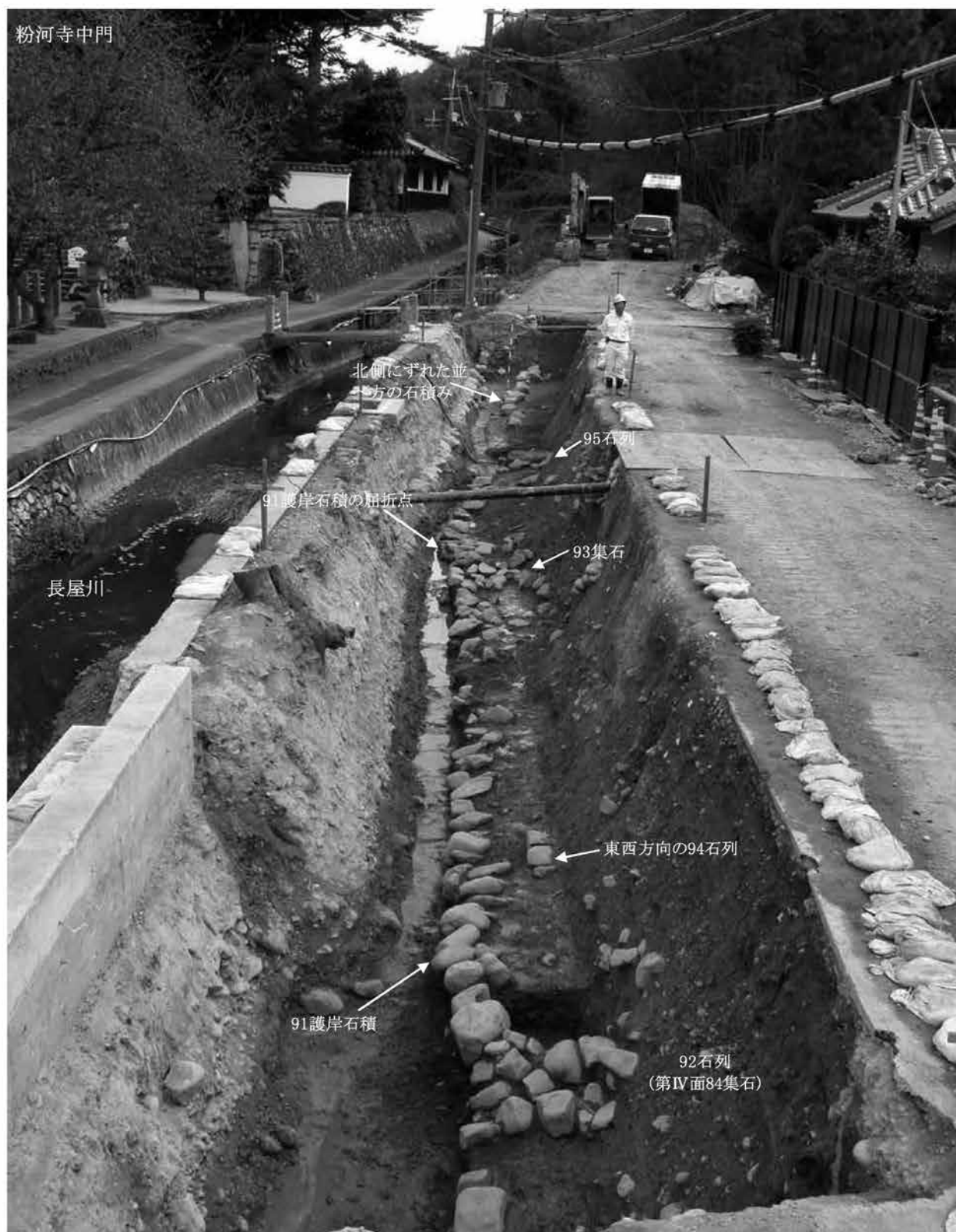
1 I 区 調査区西壁断面土層(北東から)

写真図版7・8では、第IVb面の81護岸石積を報告しました。もう、下には人工的な施設がないと考えていたのですが、さらに下位の91護岸石積(第V面)を検出しました。事前に部分的に深く掘り下げて石積みの有無を確認していたのですが、たまたま下位の石積みが無い部分に当たっていたようです。(本文中の「図26 調査区西壁断面土層図」と対比が可能)



2 I 区 第IVb面護岸石積と第V面91護岸石積の関係(東北東から)

第V面91護岸石積は、自然堆積土(第9層系堆積土)の上に積み並べられていることが判明しました。91護岸石積は、堆積層序と出土遺物内容から鎌倉時代後期と考えられ、当時は長屋川の流れは今より1m以上も深いことも分かりました。



1 I 区 第V面遺構全景(西南西から)
写真図版9で層序関係を説明した第V面91護岸石積の全容が見えました。あまり直線的に並んでいないのは、自然堆積土の上に積み並べているのが原因で積みが弱くなっていることが明らかになりました。



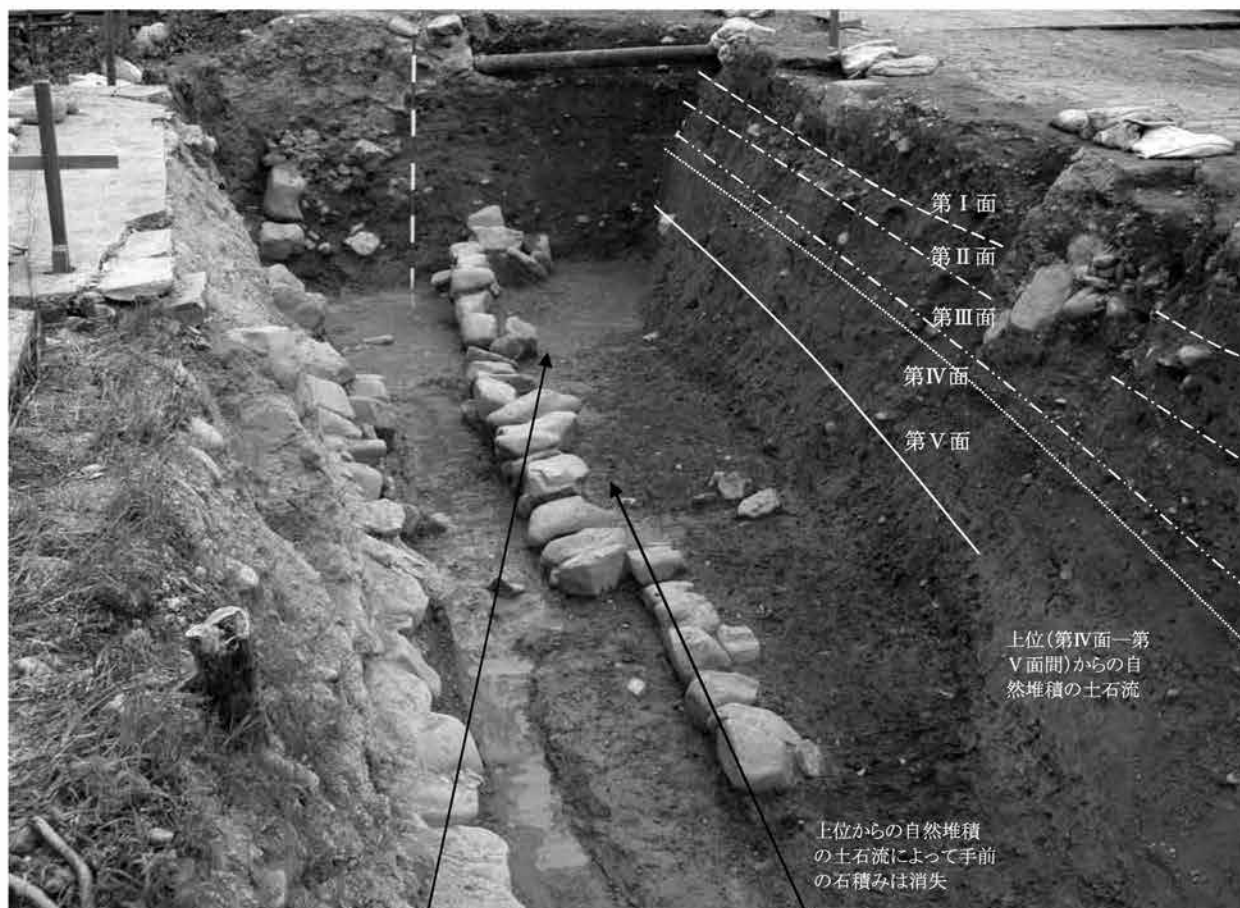
2 西端を斜め横から見た状態(西から)



3 91護岸石積の屈折点3(西から)



4 91護岸石積と94石列(北北西から)



1 I 区 第V面91護岸石積、北側にずれた並びの石積み(西から) 91護岸石積の内、I 区の東端に位置する北側にずれた並びの石積みの性格が見えてきました。石積みの周りの堆積土を少し掘り下げた地面から2本の98柱穴(下の写真)を検出しました。今回の調査の結果、鎌倉時代には既に長屋川の南側に建物があったと考えられ、石積みと関係してその建物敷地に伴う門柱のようです。



2 I 区 第Vb面遺構 98門柱検出状況(北北西から) 98柱穴は、第V面のずれた並べ方の91護岸石積を取り除いて周りをよく調べましたが、2本しか見つかりません。91護岸石積との位置・層序関係、柱穴の構造から門柱の可能性を考えました。柱材は、2本とも底のほうしか残っていません。



1 I 区 調査区西壁断面土層(東北東から:図26に対応)



2 I 区 第I b面20上部塀基礎崩れと第Ⅲ面61下部塀基礎との層序関係(北東から:図27に対応)



3 I 区 調査区南北断面土層(東北東から:図27に対応)



4 I 区 調査区H7-t・u8南壁断面土層(北北西から:図6に対応)



5 I 区 調査区東壁断面土層(第Ⅲ面より上位層:西南西から)



6 I 区 第I b面21土坑と調査区南壁断面土層(西北西から)



7 I 区 調査区東壁断面土層(西南西から:図28に対応)



8 I 区 調査区H7-l・m7南壁断面土層(北北西から:図7に対応)



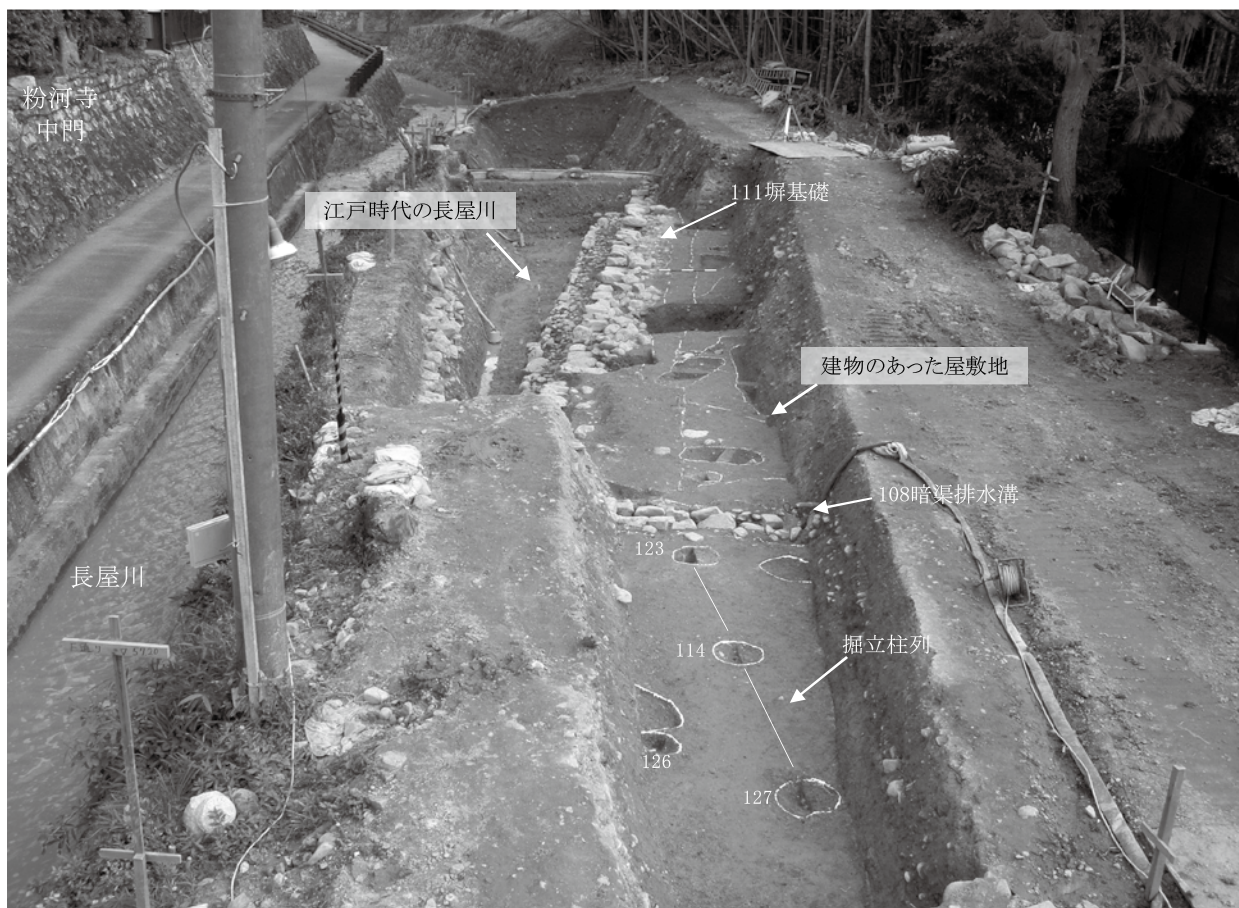
1 II 区 調査前の状況(東から)

II 区(東側地区)は、長屋川を隔てて粉河寺中門から茶屋の真南になります。事前に県教委が行った確認調査の成果を参考にして、重機で第1層系～第2層系整地土を取り除いていきました。その前に、東端の竹藪の始末が一苦勞でした。



2 II 区 第Ⅰ面遺構全景(西から)

II 区の調査は、I 区で日数がかかったため急ピッチで進められました。作業手順・方法は、I 区と同じです。早速、第Ⅰ面の調査では、瓦のぎっしり詰まった102溝状遺構や江戸時代の終わり頃の101堀基礎の壊れた状態が確認できました。



1 Ⅱ区 第Ⅲ面遺構全景(西から)

調査の後半は、主にⅡ区第Ⅲ面の調査に期間を費やしました。長屋川側には111堀基礎・112犬走り、その南側には建物のあった屋敷地が広がっていることが分かってきました。屋敷地には、掘立柱列・土坑・排水溝(写真の108暗渠排水溝は、上位の第Ⅰb面の遺構です。本来、第Ⅲ面に伴う溝は、写真図版17-5の129排水溝です)などが見つかりました。



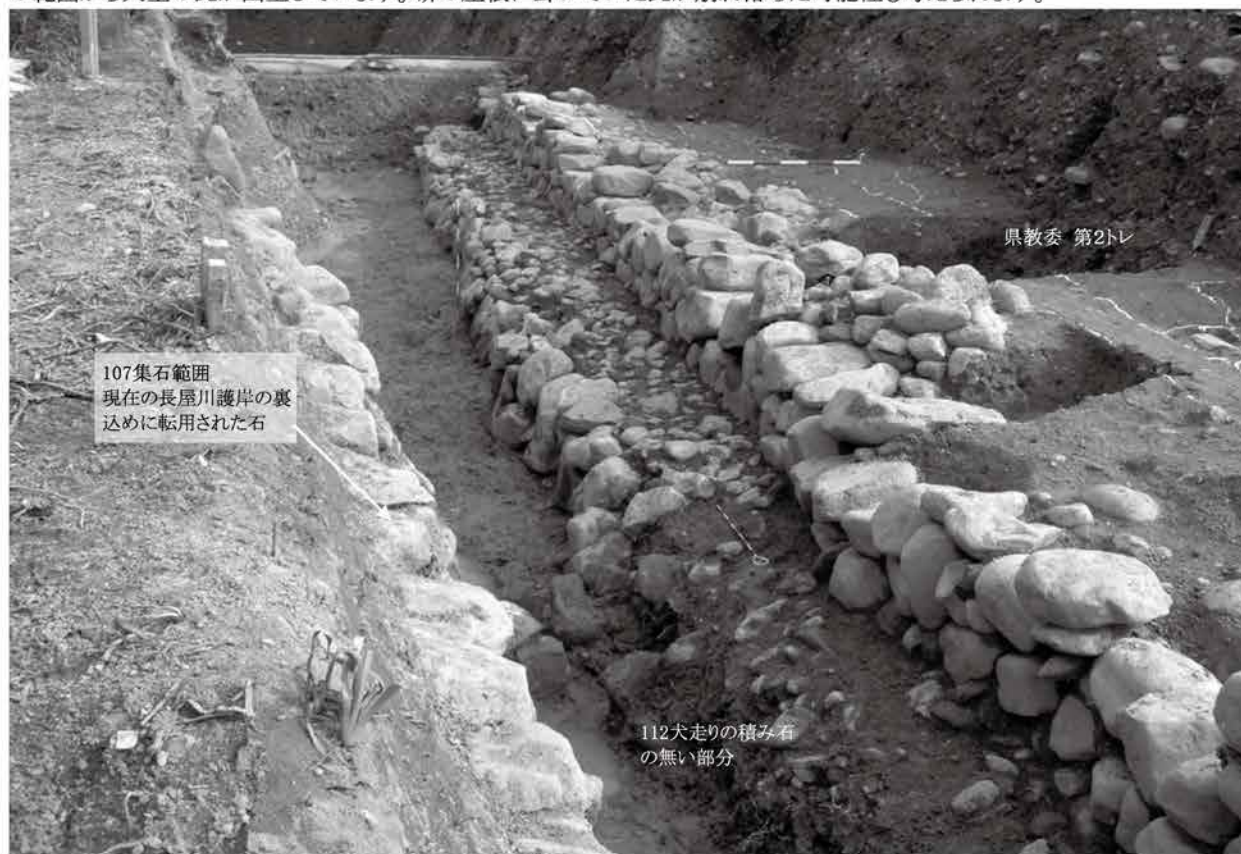
2 Ⅱ区 第Ⅲ面遺構全景(東から)

111堀基礎・112犬走りの北側では江戸時代の長屋川の流れを検出しました。その頃には大量の川砂利の堆積があり、その層から多くの瓦類が出土することが確認できました。大量の瓦とともに組合式五輪塔の一部(空風輪)も見つかりました。



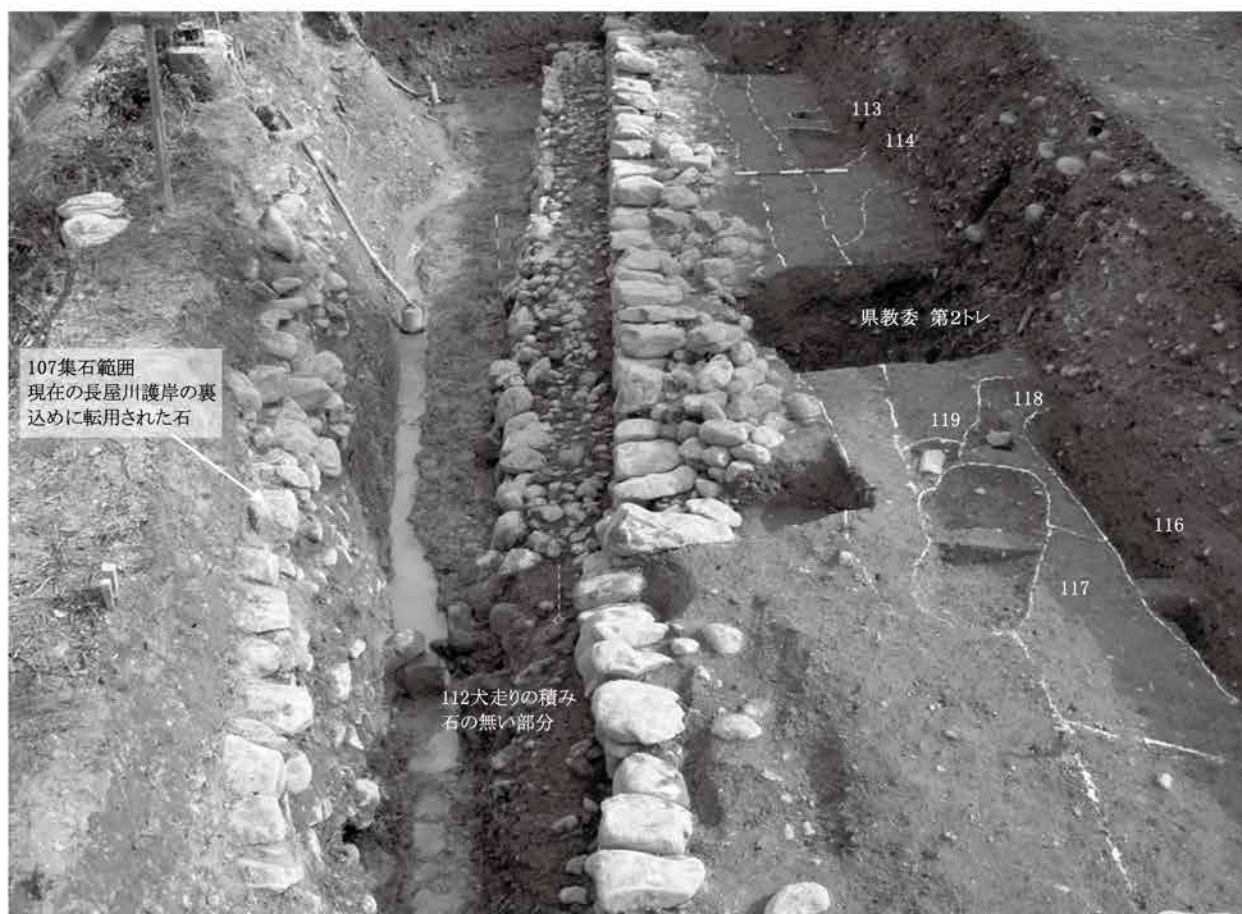
1 Ⅱ区 第Ⅲ面111塀基礎・112犬走り(東北東から)

111塀基礎は、一番上の天端積み石がないことや塀を支える柱の礎石がないこと、川側に112犬走りが造られていることなど、Ⅰ区第Ⅲ面で検出した61下部塀基礎と少し状態が違うようです。また、112犬走りの北際からは、犬走りに平行して幅1mほどの範囲から大量の瓦が出土しています。塀の屋根に葺いていた瓦が崩れ落ちた可能性も考えられます。



2 Ⅱ区 第Ⅲ面111塀基礎・112犬走り(西北西から)

112犬走りは、調査区西端の石積みが大きく無くなった状態にあります。原因は、現在の長屋川の護岸築成時(部分的に、江戸時代後期の積みが残っているものと考えられる)に裏込めとして転用されたことによると思われます。



1 Ⅱ区 第三面111塀基礎・112犬走り(西から)

111塀基礎と112犬走りを直線的な配置で見た状態です。112犬走りの手前(西端)の積み石が無いため、南側の111塀基礎の積み石にずれが生じています。また、南側の屋敷地側では、数基の土坑が見つかっています。



2 第三面111塀基礎・112犬走りの積み石を斜め横から見た状態(西北西から)



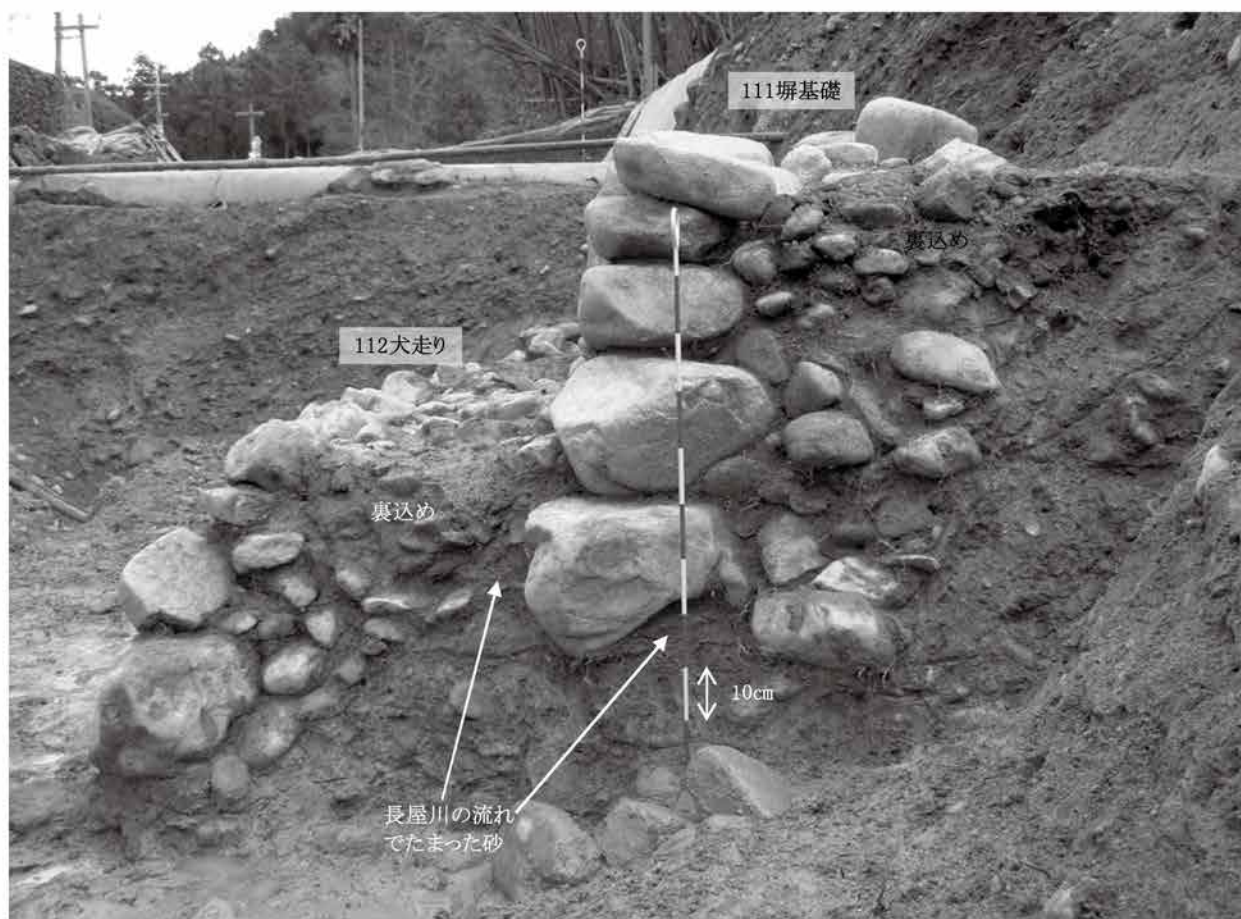
3 第三面111塀基礎・112犬走りの積み石を斜め横から見た状態(東北東から)



4 第三面111塀基礎・112犬走りの直線的な配置(東から)



5 第三面112犬走りの積み石の無い部分(東北東から)



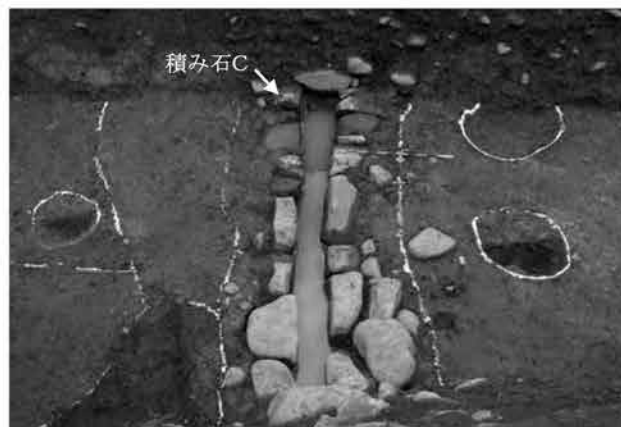
1 II 区 第三面111塀基礎・112犬走り南北断面土層(西から:図43に対応)
石積の構築は、まず、111塀基礎は裏込め石を入れながら石を積み置き、次に112犬走りの積み石も同じ手順で積んでいます。堆積層序の観察から、111塀基礎が造られた後、112犬走りを造るまで少し期間が空くことも分かりました。



2 第三面111塀基礎・112犬走りの積み石の状態(北から)
上の写真の断面位置



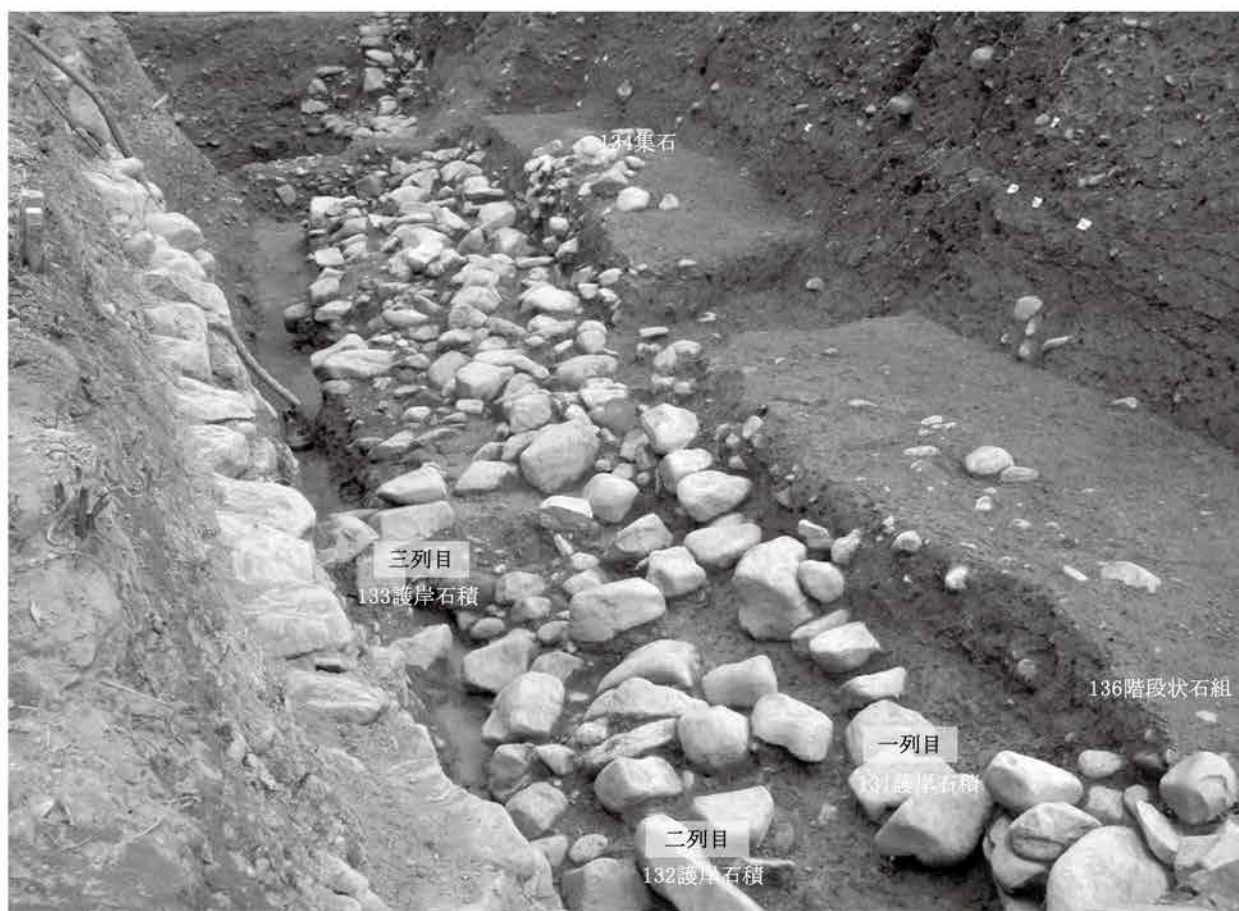
3 第三面111塀基礎・112犬走りの積み石の状態(北から)



4 第I b面108暗渠排水溝(北から)
常時、調査中も屋敷地側からの湧水が絶えませんでした。

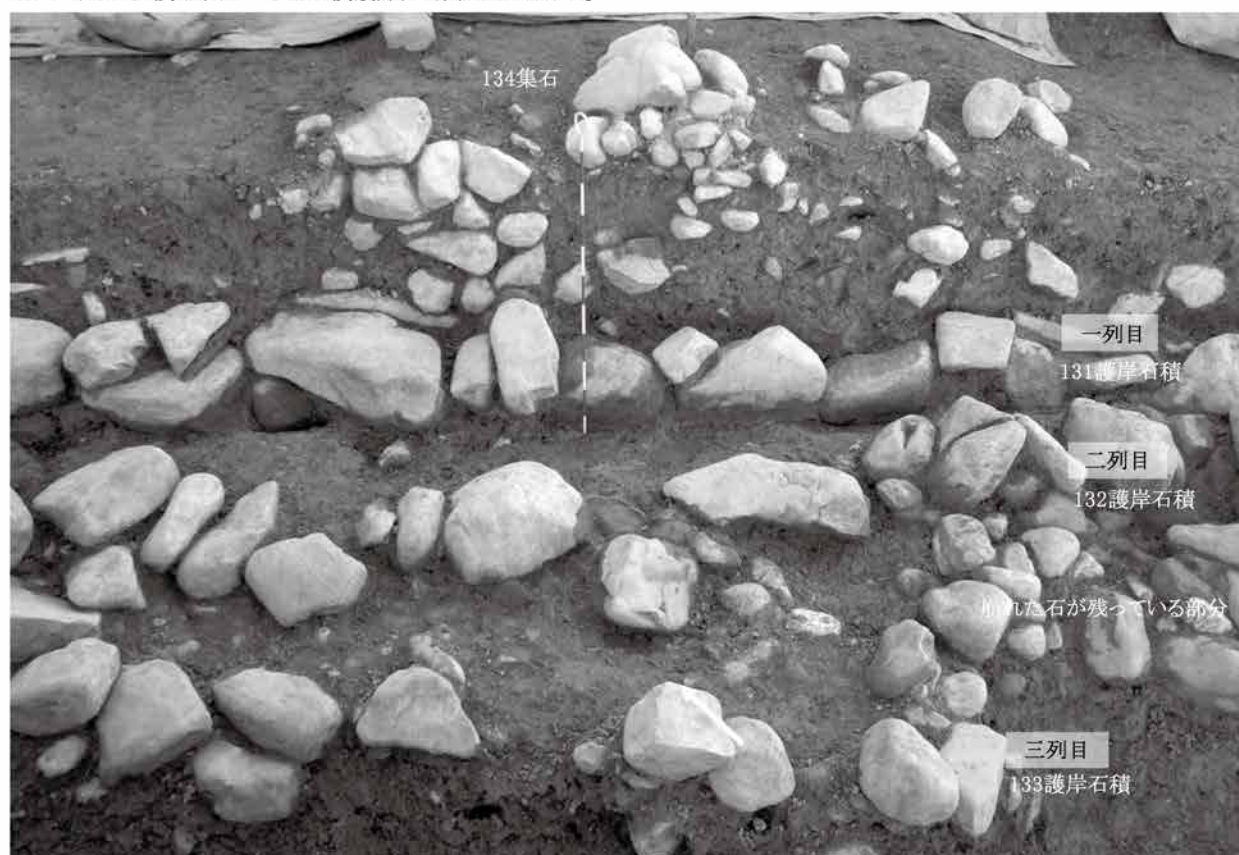


5 第三面129排水溝(北から)
108暗渠排水溝の真下から同じ位置で見つかりました。



1 II 区 第IV面131～133石積護岸全景(西北西から)

II 区でも、第III面111塀基礎・112犬走りの下位から、また護岸石積が検出されました(第IV面)。I 区で対応する時代の第IVb面81護岸石積と少し違いが見られます。I 区では一列に石が積まれていましたが、II 区では崩れている部分が多いものの三列の石積み(131～133石積護岸)が確認されました。

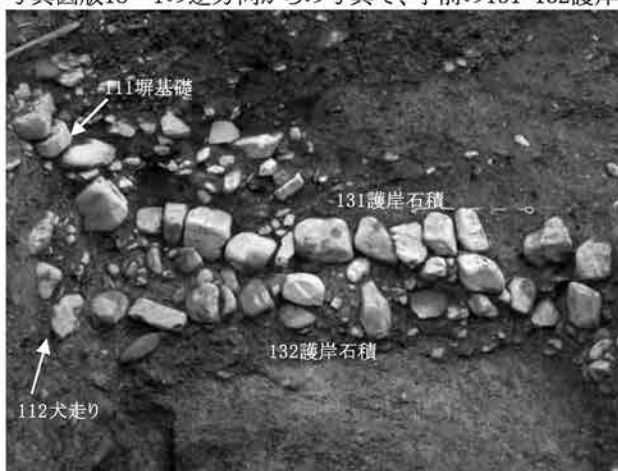


2 II 区 第IV面131～133護岸石積細部の状態(部分的に崩れた石を除いた状態:北から)

131～133護岸石積の中で崩れていると判断した石を部分的に取り除いた状態です。一列目(131護岸石積)の面の揃っているのが見えます。二列目(132護岸石積)と三列目(133護岸石積)は、崩れたと判断できる石がまだ少し残った状態です。



1 II区 第IV面131～133石積護岸全景(東北東から)
写真図版18-1の逆方向からの写真で、手前の131・132護岸石積は状態が良好ですが、133護岸石積は残っていません。



2 II区東側 第IV面131・132護岸石積(北から)



3 II区西側 第IV面131・132護岸石積(東北東から)



4 II区 第IV面135排水溝(崩落石除去後:北から)



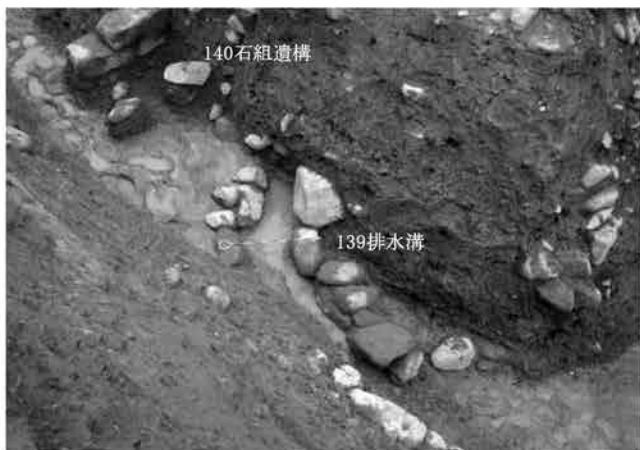
5 II区 第IV面135排水溝(石組崩落状態:北から)



1 II区 第IV面139排水溝東側(崩落石除去後:北西から)



2 II区 第IV面139排水溝東側(石組崩落状態:北西から)



3 II区 第IV面139排水溝西側(崩落石除去後:南東から)



4 II区H7-k6 調査区北壁断面土層の状態(南から)

写真は、水の流れ出す部分が二股に分かれた139排水溝です。135排水溝と同様に石組の多くが崩れてなくなっています。このことが原因で135・139排水溝は、本来の検出面より下位の第V面で見つけることができませんでした。



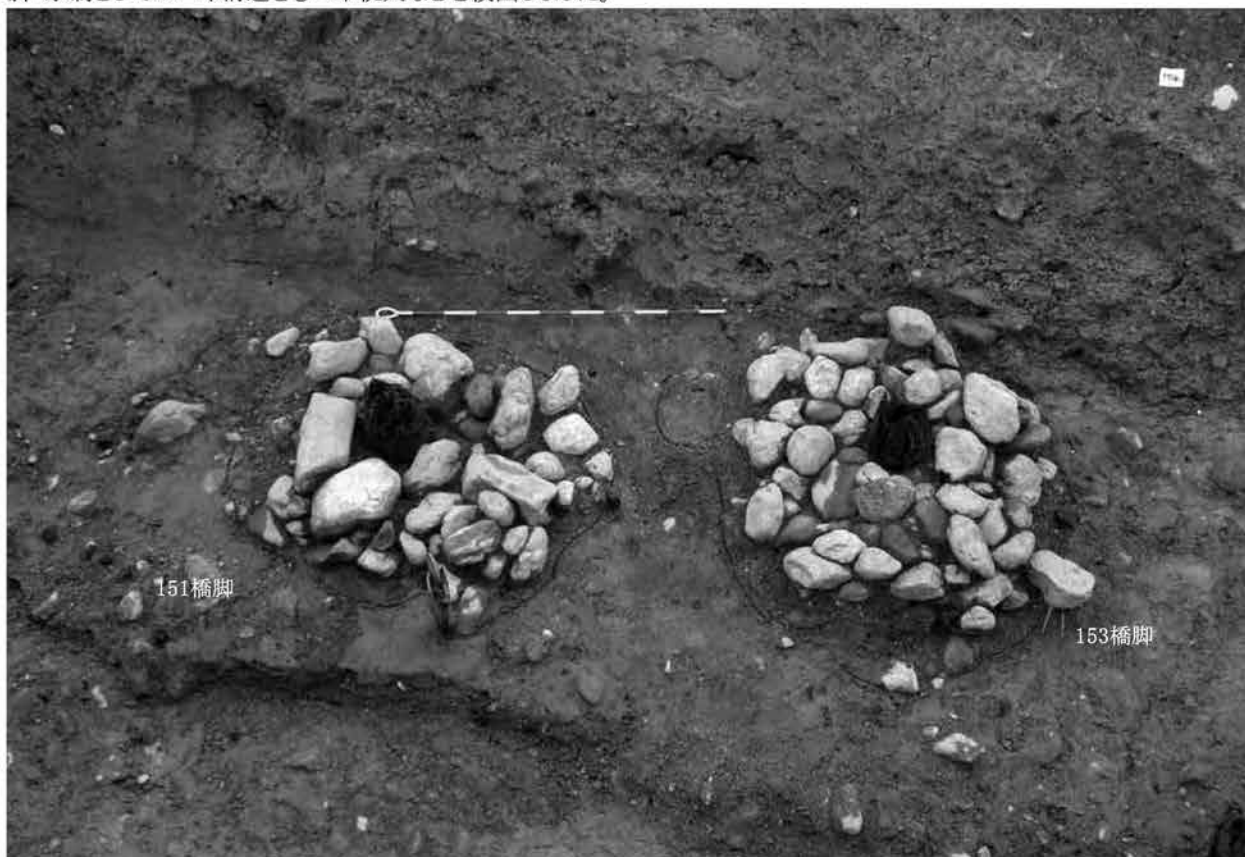
5 II区 第V面遺構全景(東北東から)

第V面の調査では、屋敷地側の段を確認することができましたが、141護岸石積は非常に残りの悪い状態です。それでも護岸の法面の一部に木杭列を確認しています。木杭列は、護岸の崩れを防ぐための工夫の一つと考えられます。



1 II 区 第VI面主要遺構全景(西から)

やはり、調査の終わり間際にはいろんなものが出てくるというジンクス通りでした。この写真は、写真図版20-5で報告した第V面のさらに下(第VI面)から見つかった構築物です。既に調査を始めた地表面から約3~4.5mも下に埋もれていた橋脚・水制としてのハネ構造をもつ木杭列などを検出しました。



2 II 区 第VI面根固め石を伴う151・153橋脚(北から)

橋脚は、柱材の基部を根固め石で固定する方法を採用し、非常に頑丈に造られています。また、柱材の基部には手斧の加工痕が明瞭に残っています。第VI面の遺構は、堆積層序と出土遺物から鎌倉時代前期に造られたものと思われます。



1 Ⅱ区西側 調査区南壁断面土層(東北東から)



2 Ⅱ区西側 調査区南壁断面土層(西北西から)



3 Ⅱ区 調査区H7-f6南北断面土層(西から:図43に対応)



4 Ⅱ区 調査区H7-f.g7南壁断面土層(北から:図8に対応)



5 Ⅱ区 調査区H7-e5.6南北断面土層(西から:図44に対応)



6 Ⅱ区 調査区H7-e5.6南北断面土層細部(西から:図44に対応)



7 Ⅱ区東側 調査区東壁断面土層(西から:図45に対応)



8 Ⅱ区東側 調査区南壁断面土層(東北東から)



1 Ⅱ区西側 調査区南壁断面土層(東北東から)



2 Ⅱ区西側 調査区南壁断面土層(西北西から)



3 Ⅱ区 調査区H7-f6南北断面土層(西から:図43に対応)



4 Ⅱ区 調査区H7-f.g7南壁断面土層(北から:図8に対応)



5 Ⅱ区 調査区H7-e5.6南北断面土層(西から:図44に対応)



6 Ⅱ区 調査区H7-e5.6南北断面土層細部(西から:図44に対応)



7 Ⅱ区東側 調査区東壁断面土層(西から:図45に対応)



8 Ⅱ区東側 調査区南壁断面土層(東北東から)



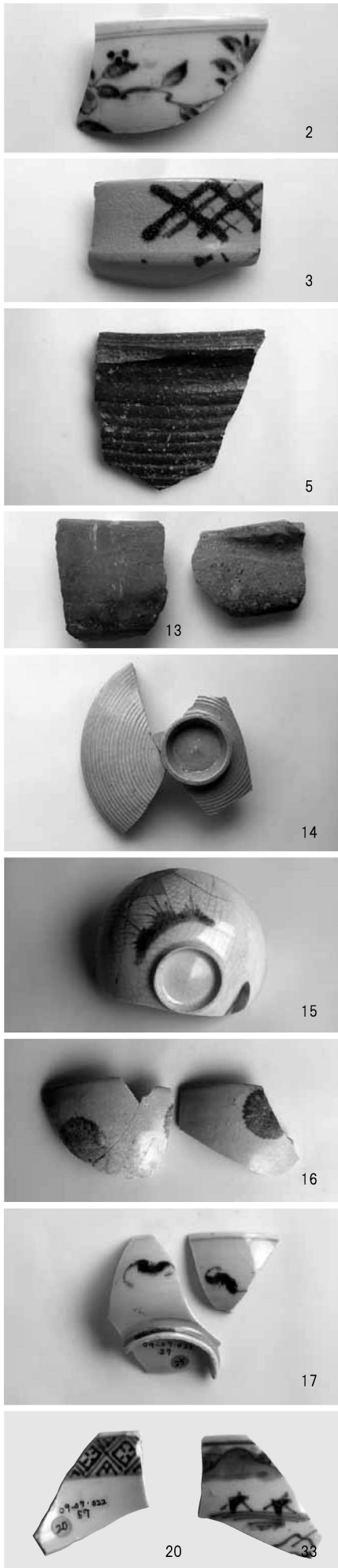
I・II区出土 各種遺物群



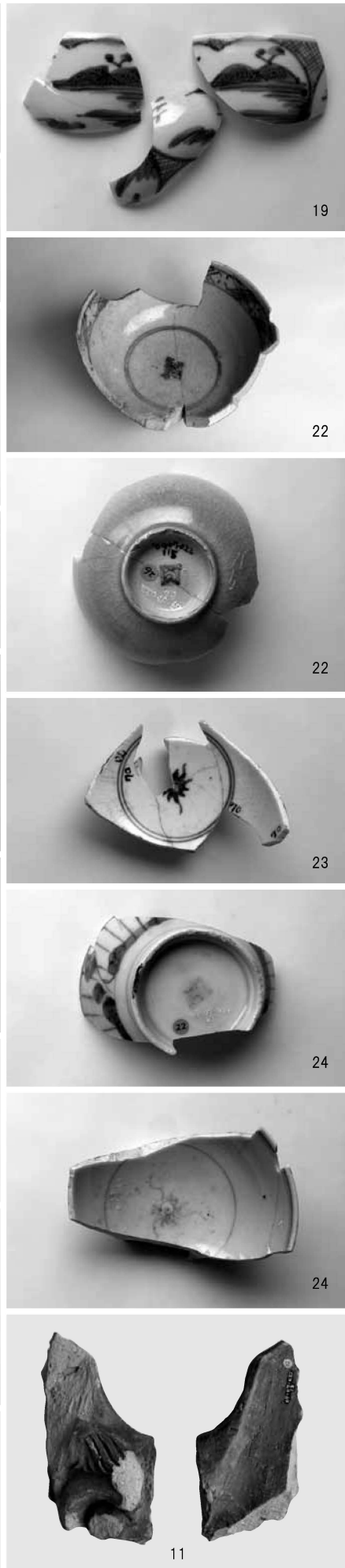
I区出土 各種土器類



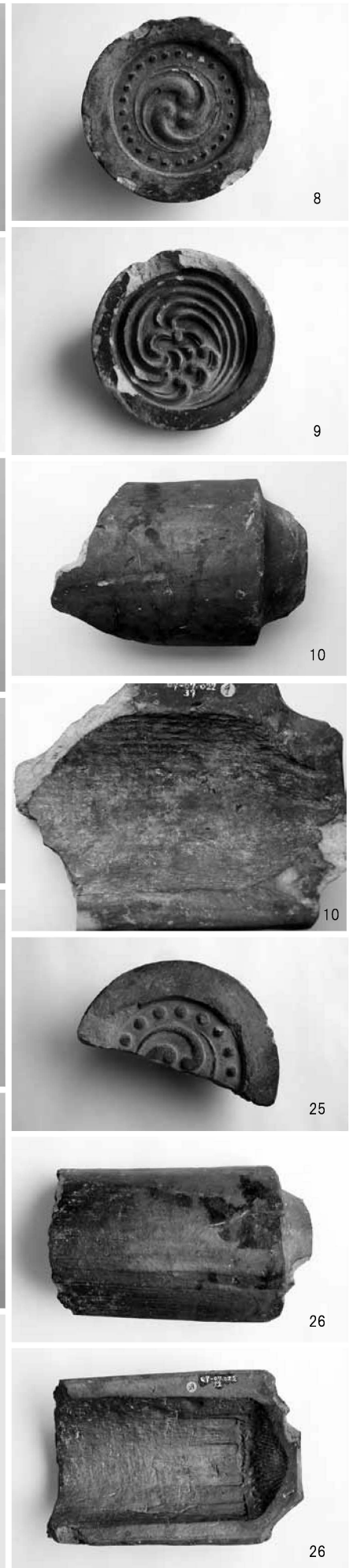
II区出土 各種瓦類



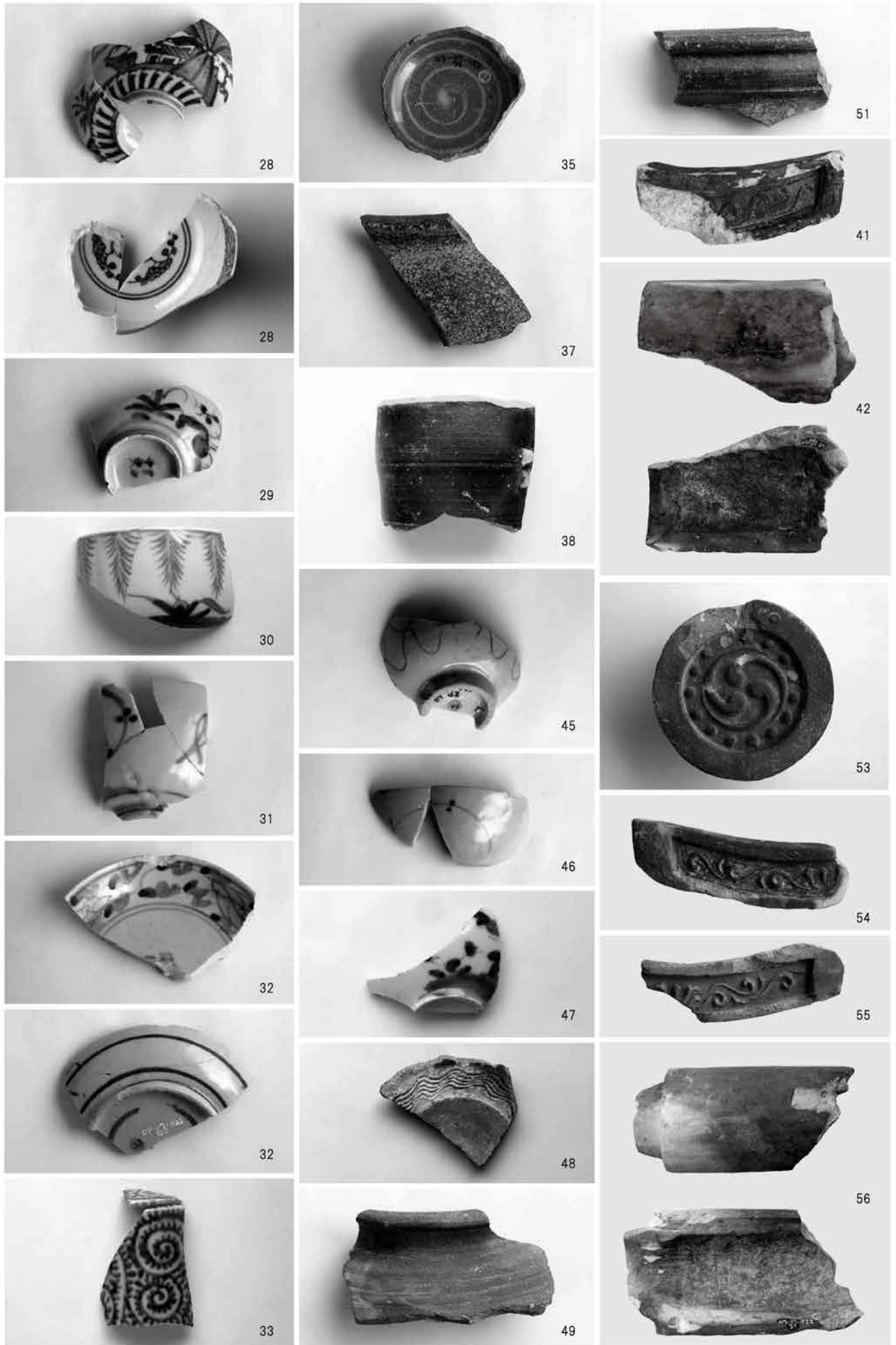
第 I b 面遺構
2・3・5・8・10・21 土坑
9:61 下部塀基礎直上層



第 I 面遺構
13～17・19・20・22～26:20 上部塀基礎裏込め崩れ

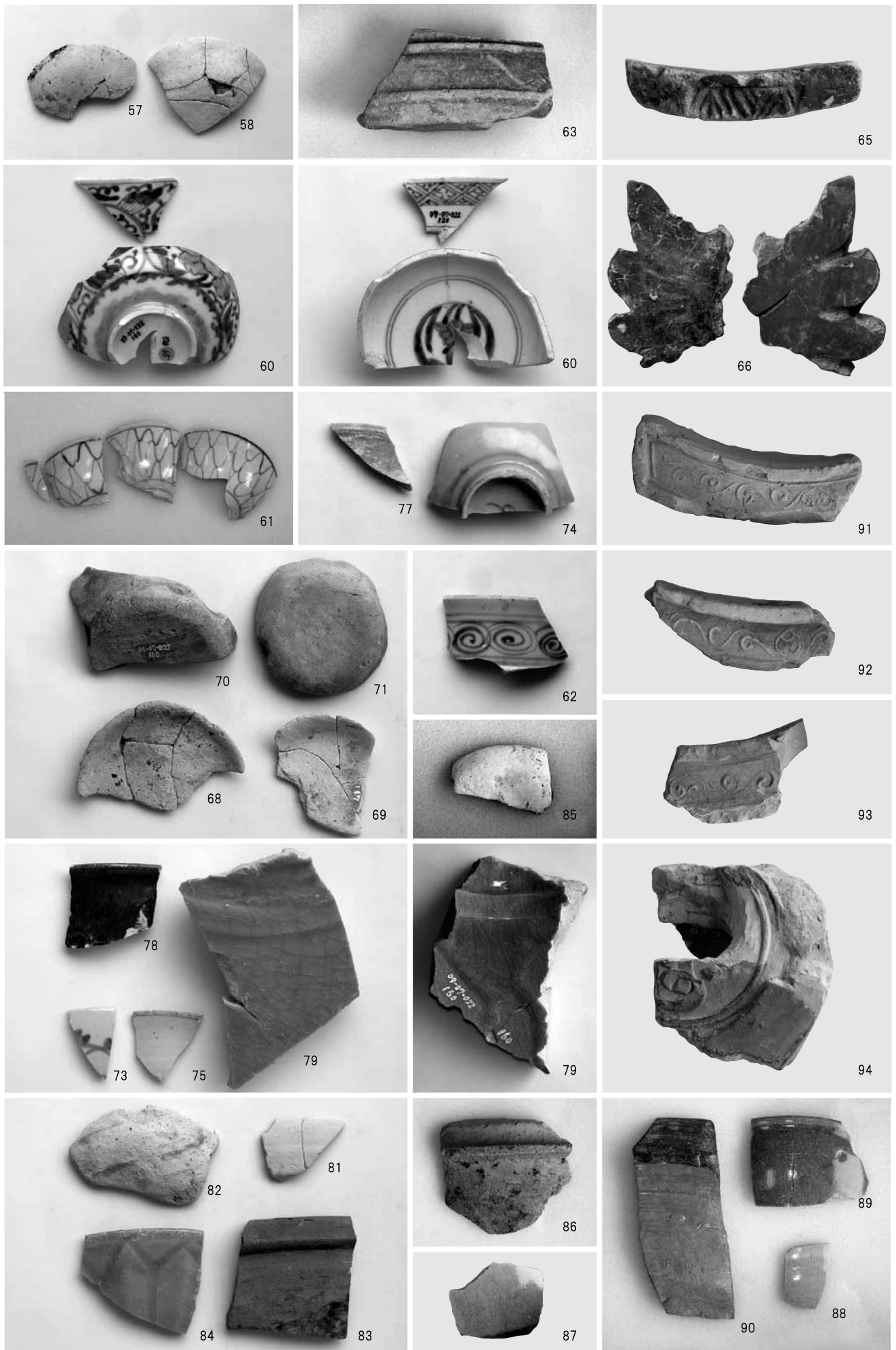


第2層系堆積層
11:20 上部塀基礎裏込め崩れ



第Ⅱ-Ⅲ面間遺構
20 上部塀基礎北側落ち
30・33・38: 第2層系堆積土

31・32・37・41: 第3層系堆積土・第2層系土混
28・29・35・42・45～49・51・53～56: 第3層系堆積土



第Ⅱ-Ⅲ面間 第Ⅲ面61下部塀基礎北側
落ち 57・58・60～63・65・66:第4層系堆積土
第Ⅱ面遺構 77:44土坑

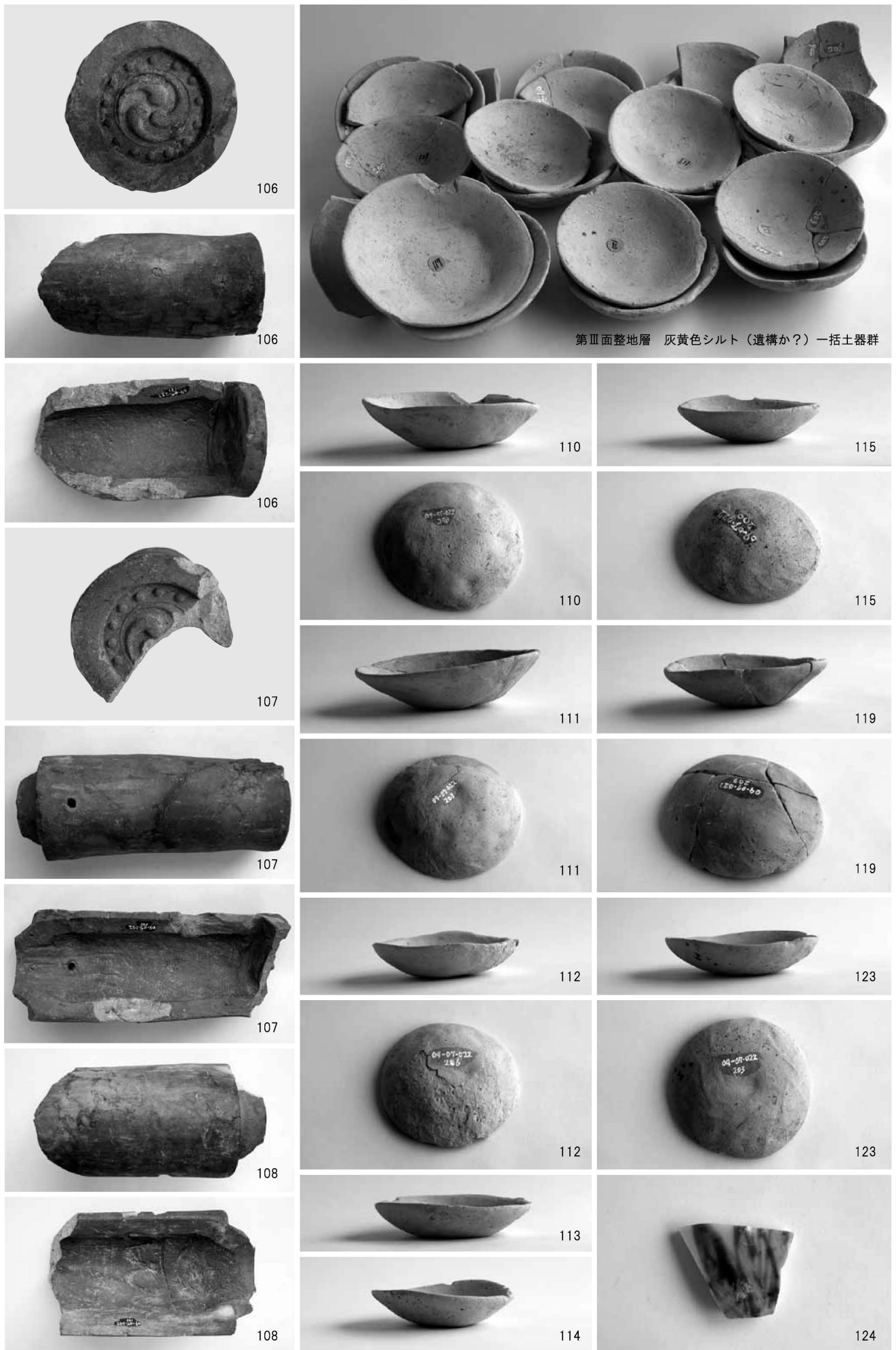
第Ⅲ面遺構面関係 68～71・73～75・78・
79:第4層系整地土
第Ⅲ-Ⅳ面間 81～84:第5・6層系整地土

第Ⅲ面遺構 85～94:61下部塀基礎中込め



第Ⅲ面遺構

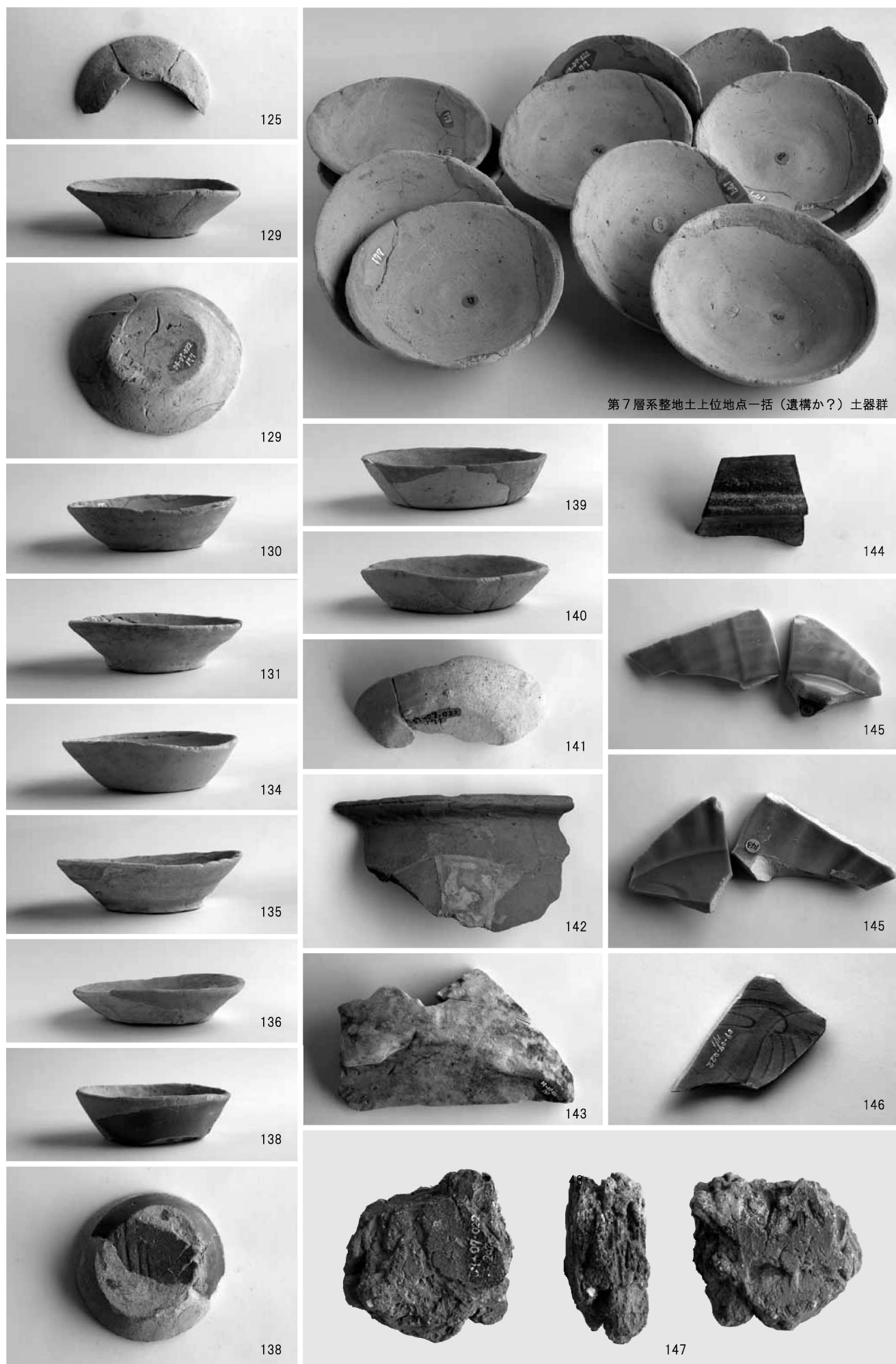
95・96:71配石土坑、97～101:63排水溝、102～105・109:67土坑



第Ⅲ面遺構

106～108:67土坑

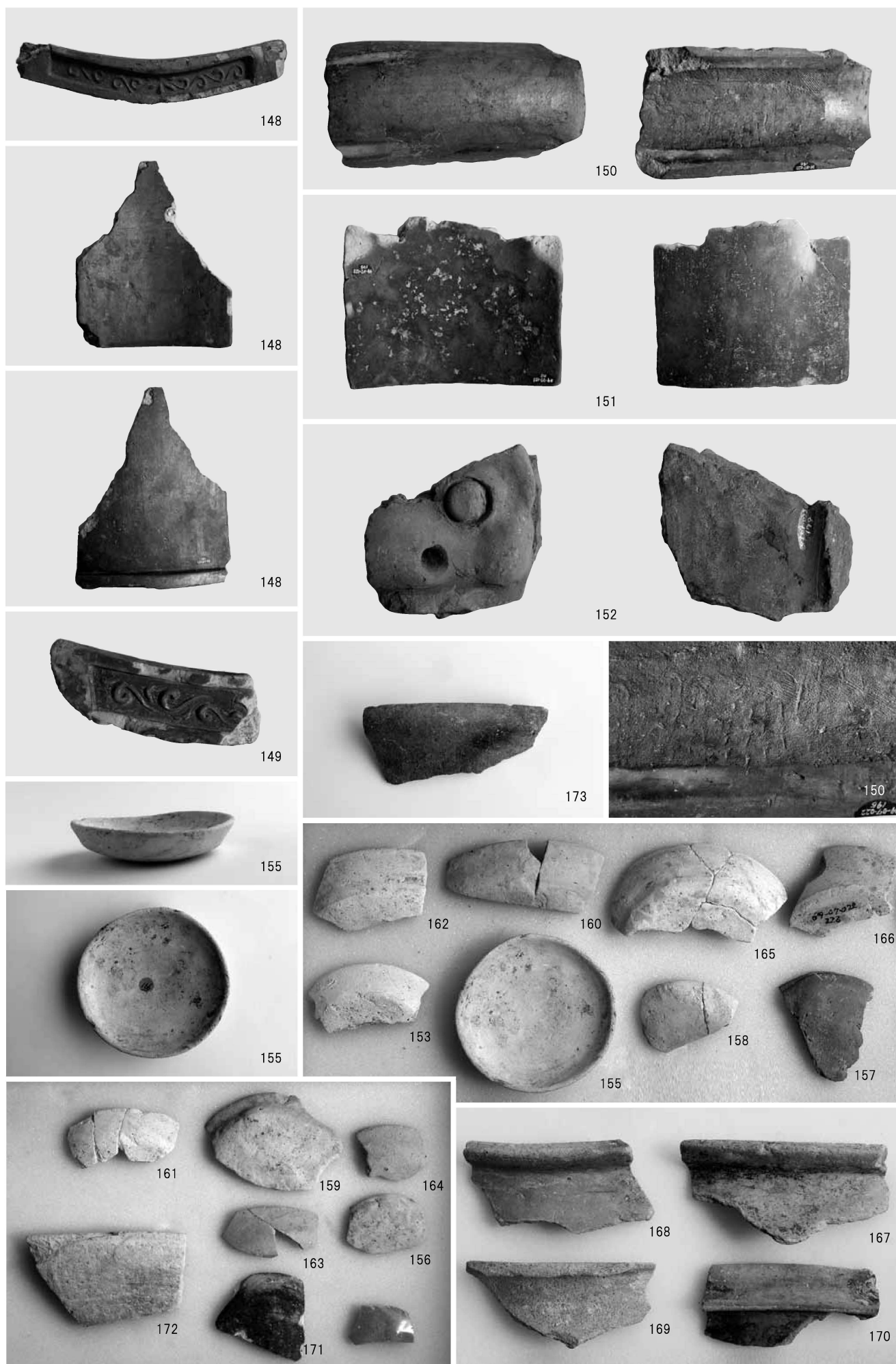
110～115・119・123・124:第Ⅲ面整地層 灰黄色シルト（遺構か？）



第7層系整地土

125・136・138～147: 第7層系整地土上位

129～131・134・135: 第7層系整地土上位地点一括（遺構か？）



第7層系整地土

148～152: 第7層系整地土上位

153・155～173: 第7層系整地土中位・下位



第7層系整地土
174～194:第7層系整地土各地点

第IVb面遺構
209・210:第IVb面 81護岸石積内
196・204・205・207・208:第IVb面 81護岸石
積直上

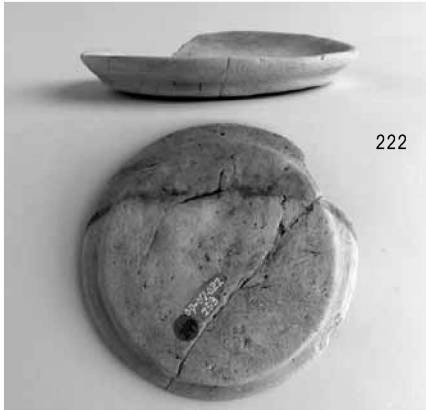
第IVb面 81護岸石積 北側落ち他
211～215・217～221:第6層系対応堆積土
図 57・図 58 に対応



第IVb 面以下 第8層系整地土一括土器群(土師器皿)



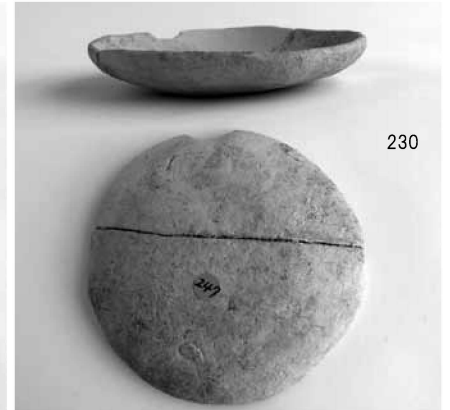
第IVb 面以下 第8層系整地土一括土器群(土師器小皿)



222



225



230



223



226



229



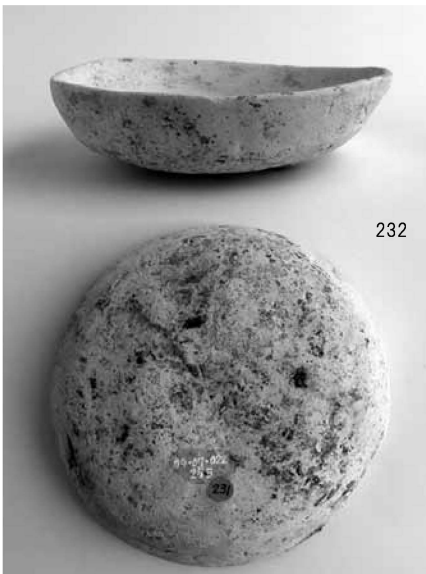
224



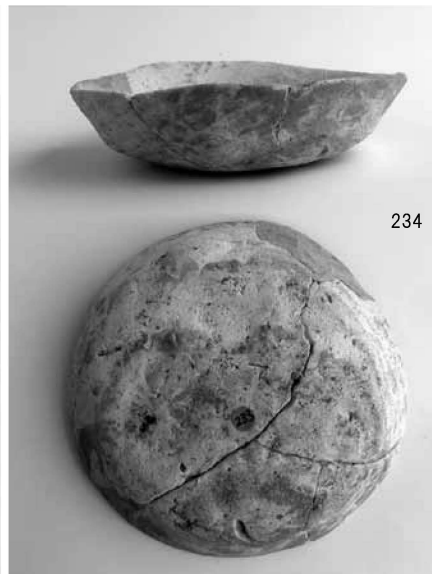
228



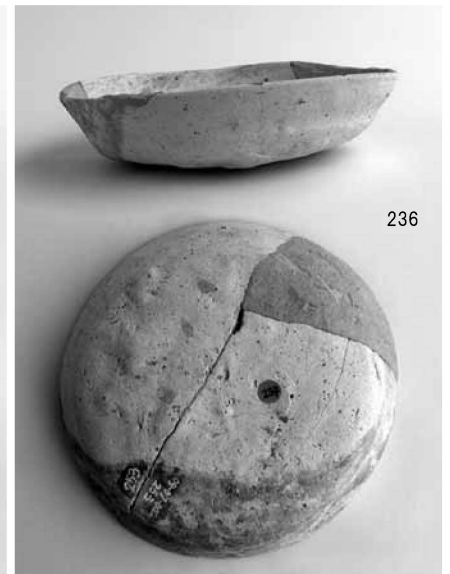
231



232



234



236



233



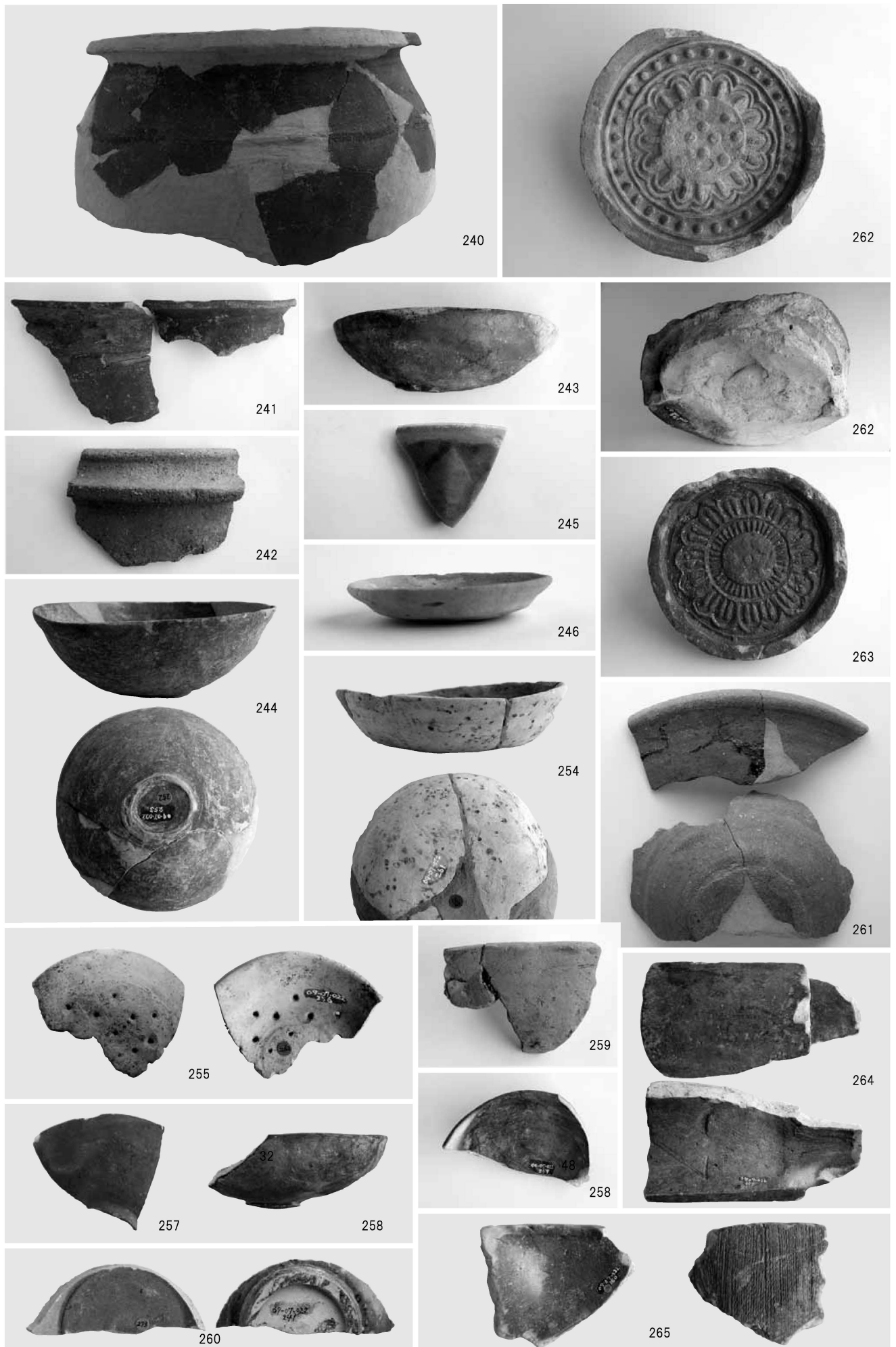
235



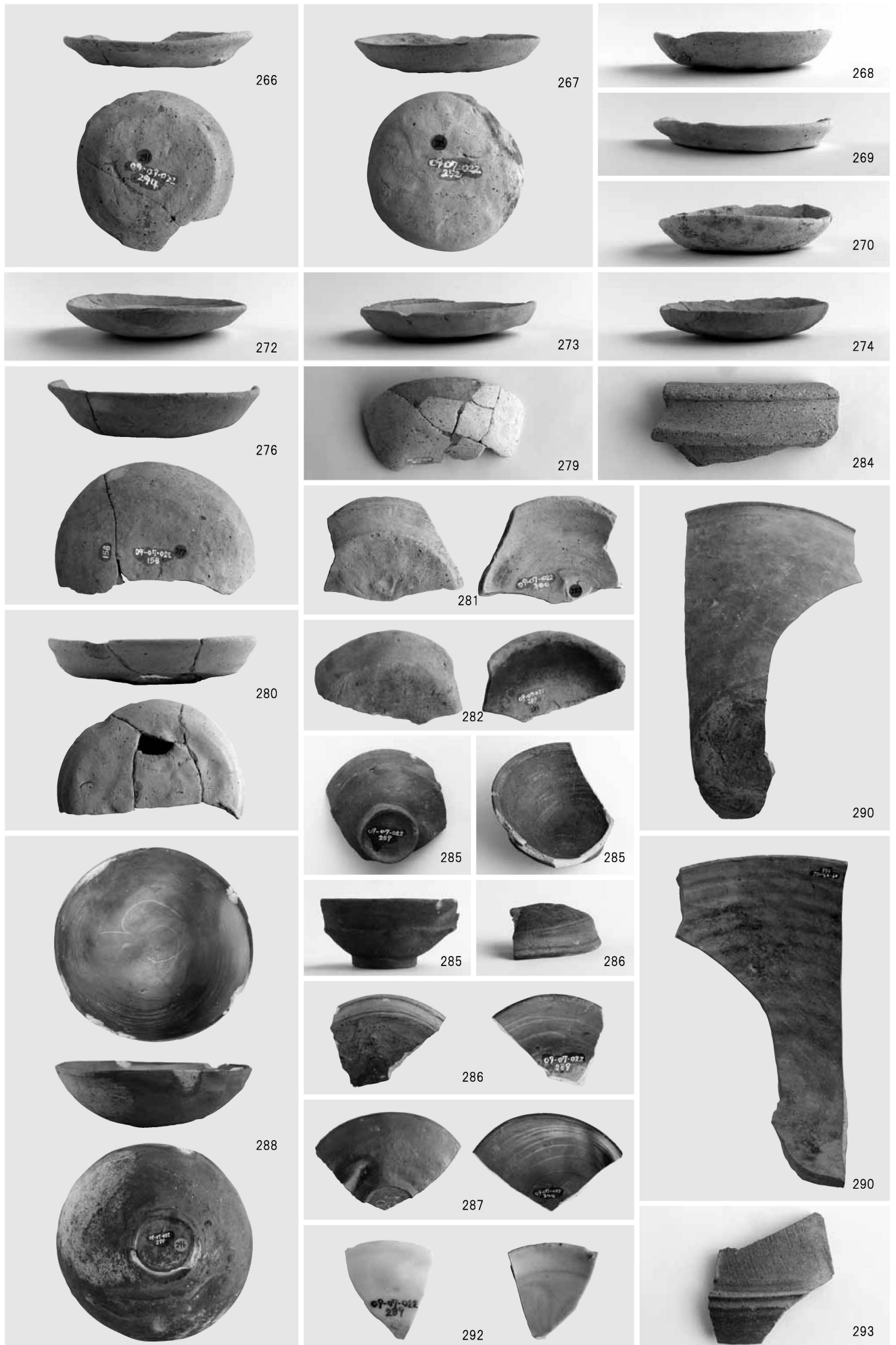
239

第8層系整地土

222～226・228～236・239:第IVb面以下 第8層系整地土一括



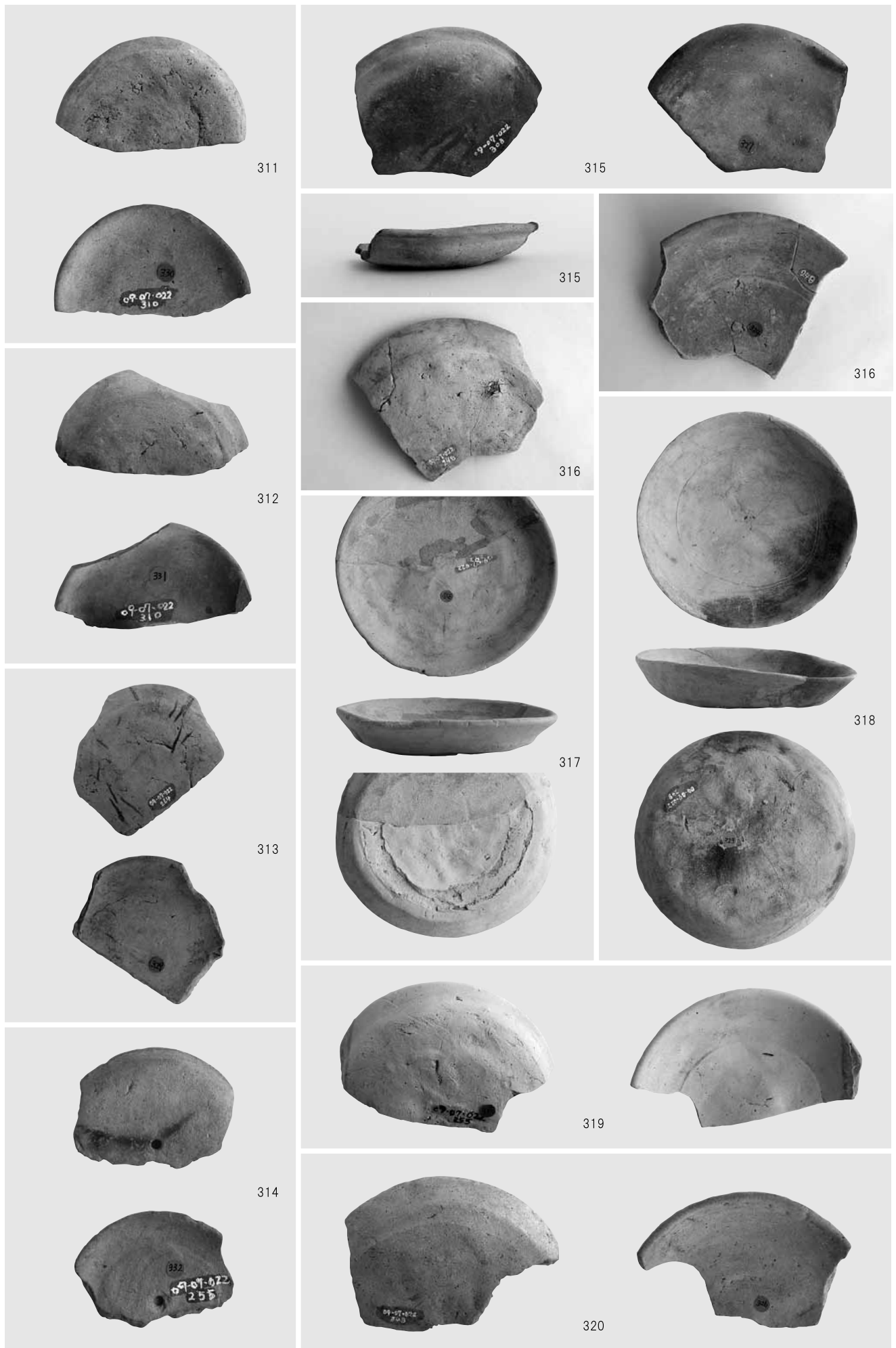
240 ~ 245・261・262: 第IVb 面以下 第8層系整地土一括
 246・254・255・257 ~ 260・263 ~ 265: 第IVb面以下 第8層系整地土 各地点



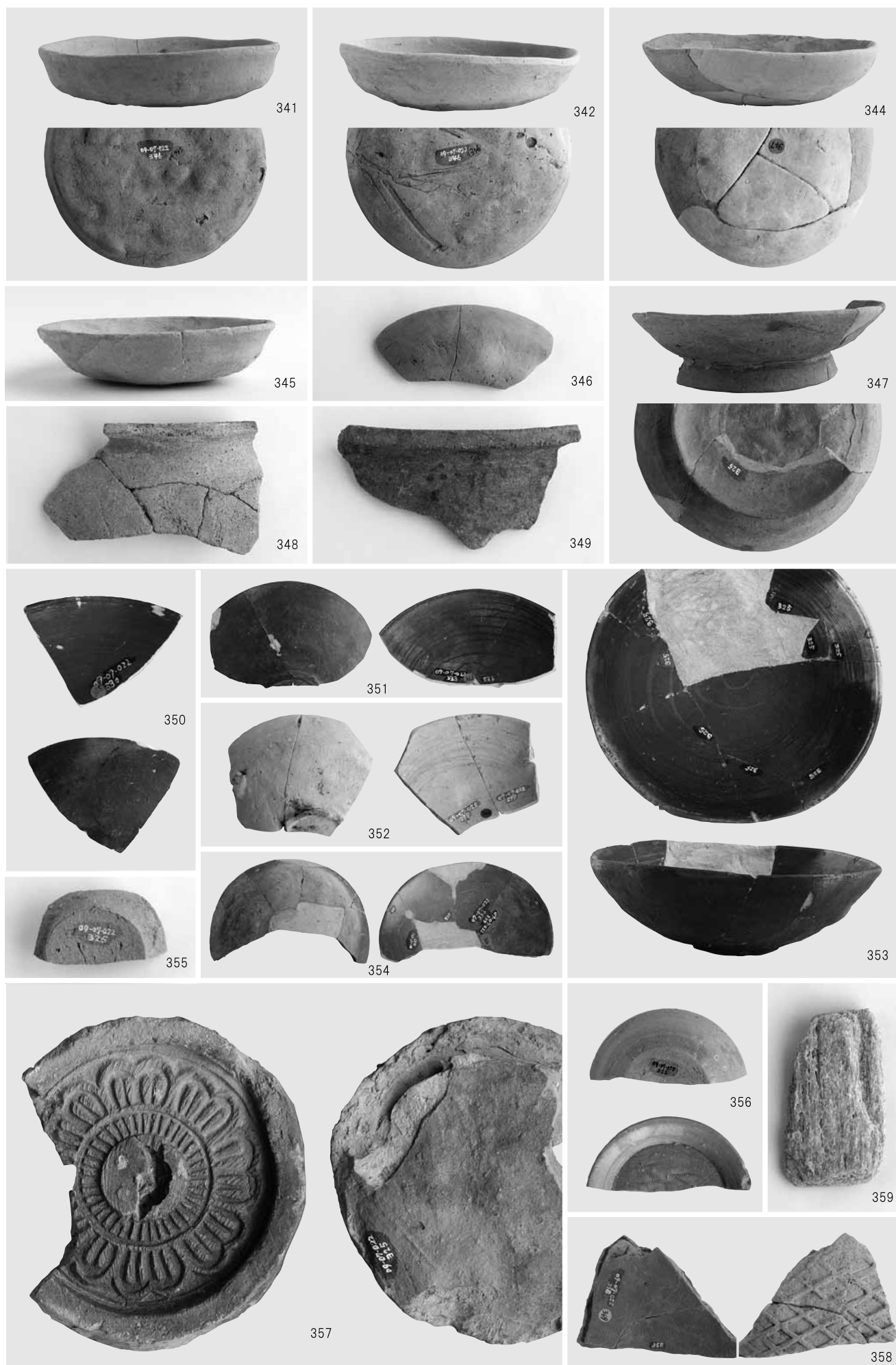
266 ~ 270・272 ~ 274・276・279 ~ 282・284 ~ 288・290・292・293: 第9層系堆積土 各地点



295 ~ 299・303 ~ 305・307・308: 第V面 91 護岸石積北側落ち、310:91 護岸石積内



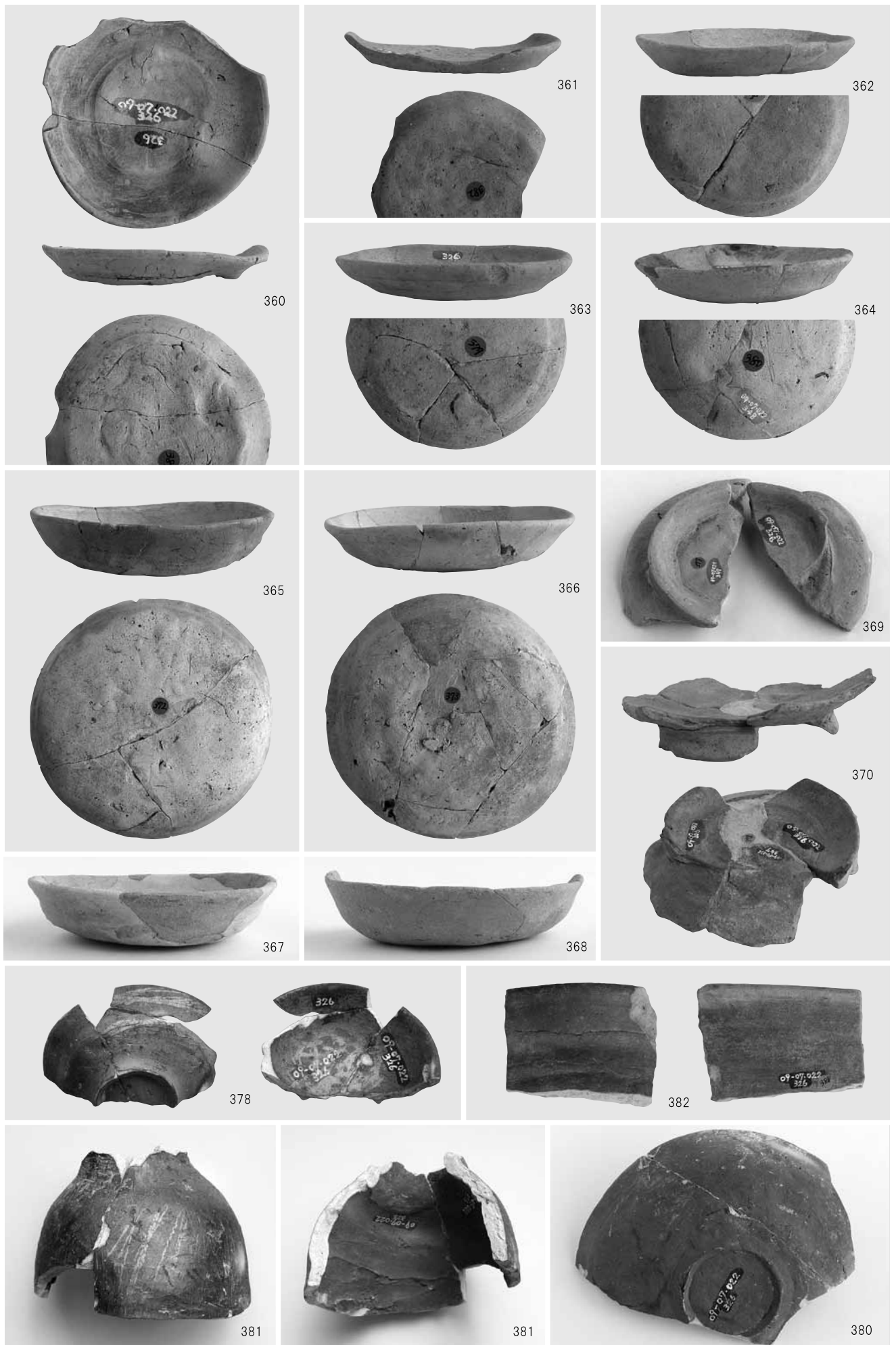
311 ~ 320: 第 11 層系堆積土各地点



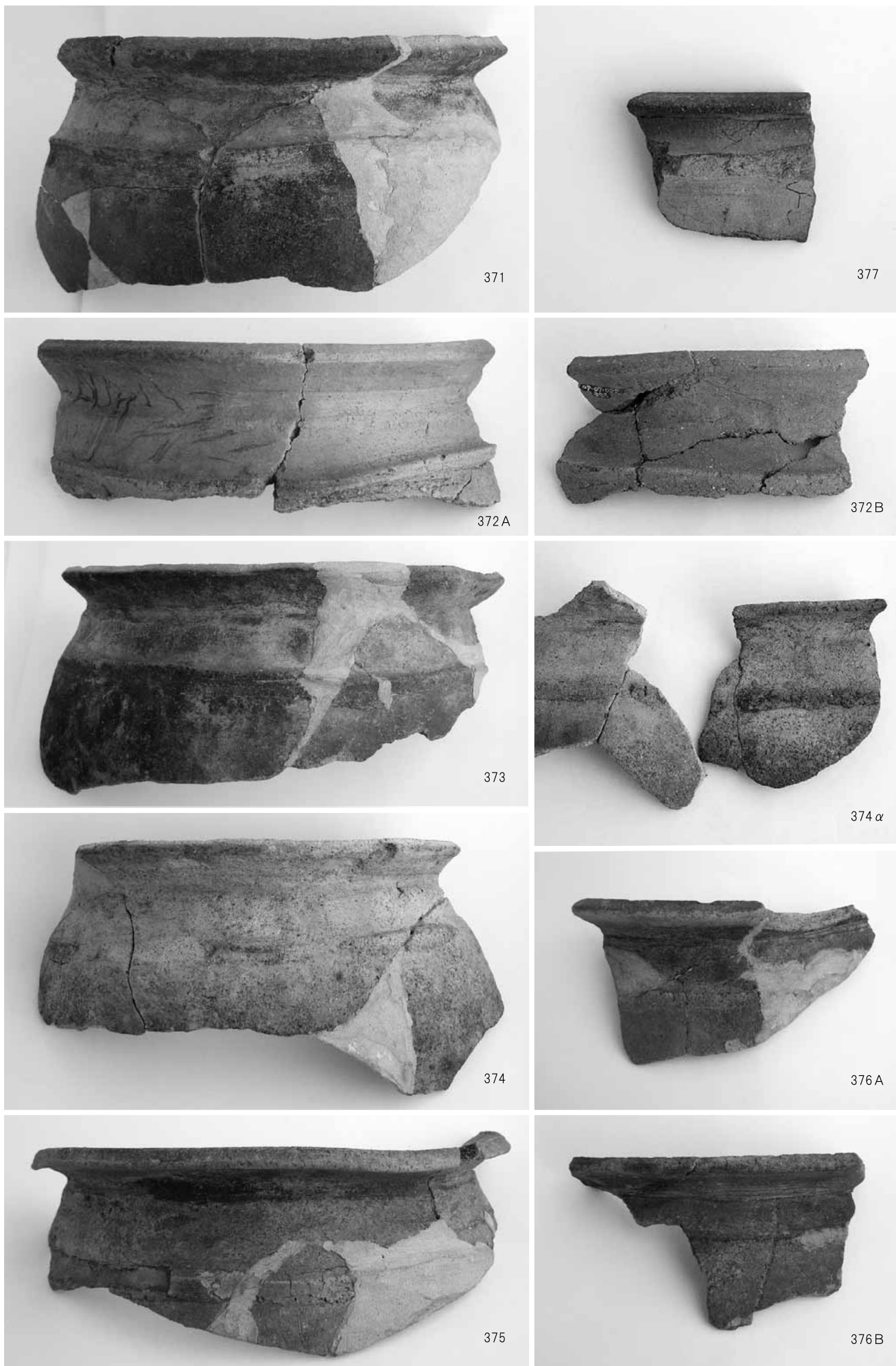
341・342・344 ～ 359: 第 11 層系b堆積土H7-m7 一括



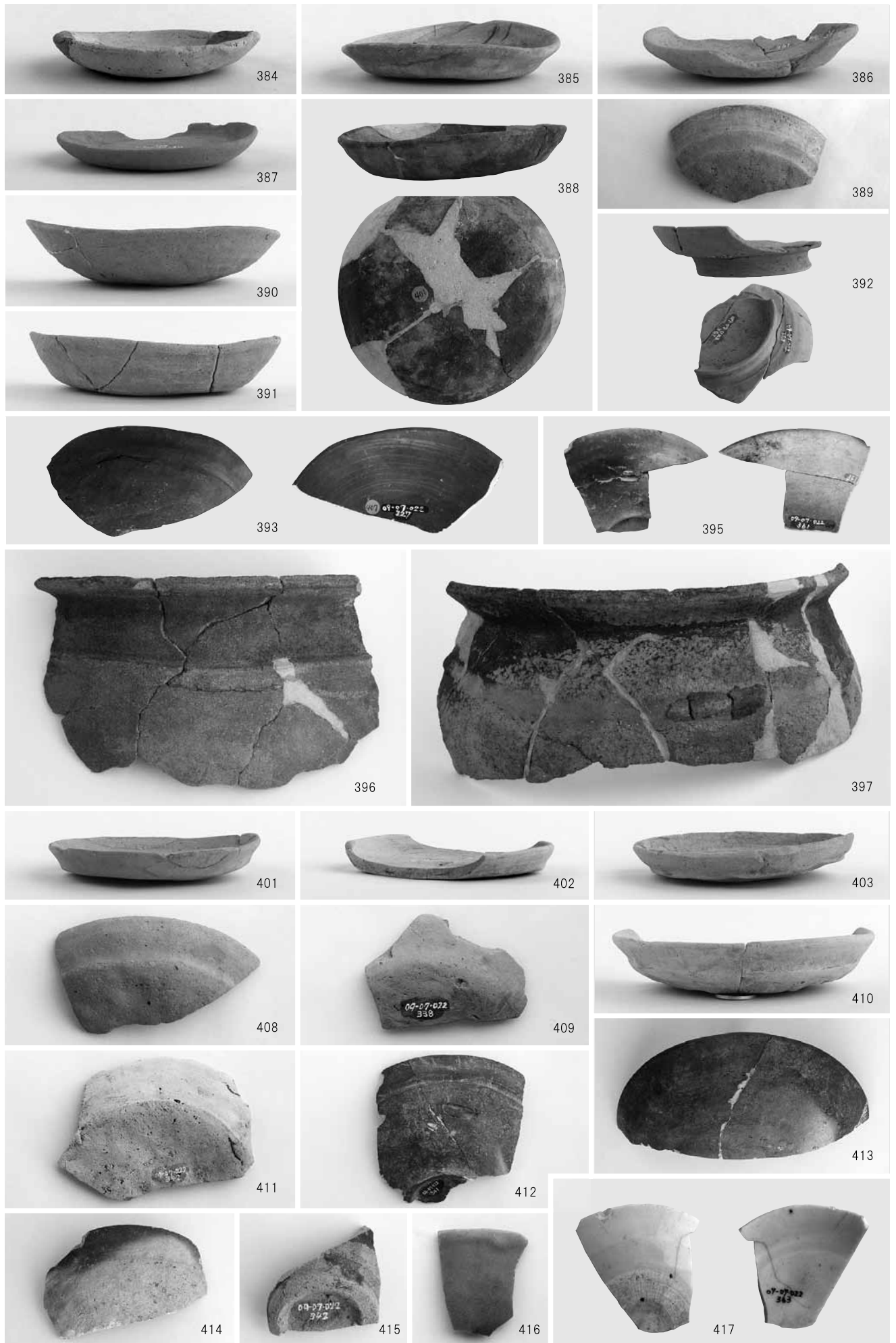
341・342・344 ～ 359: 第 11 層系b堆積土H7-m7 一括



360 ~ 370・378・380 ~ 382: 第11層系b・c堆積土H7-n7 一括



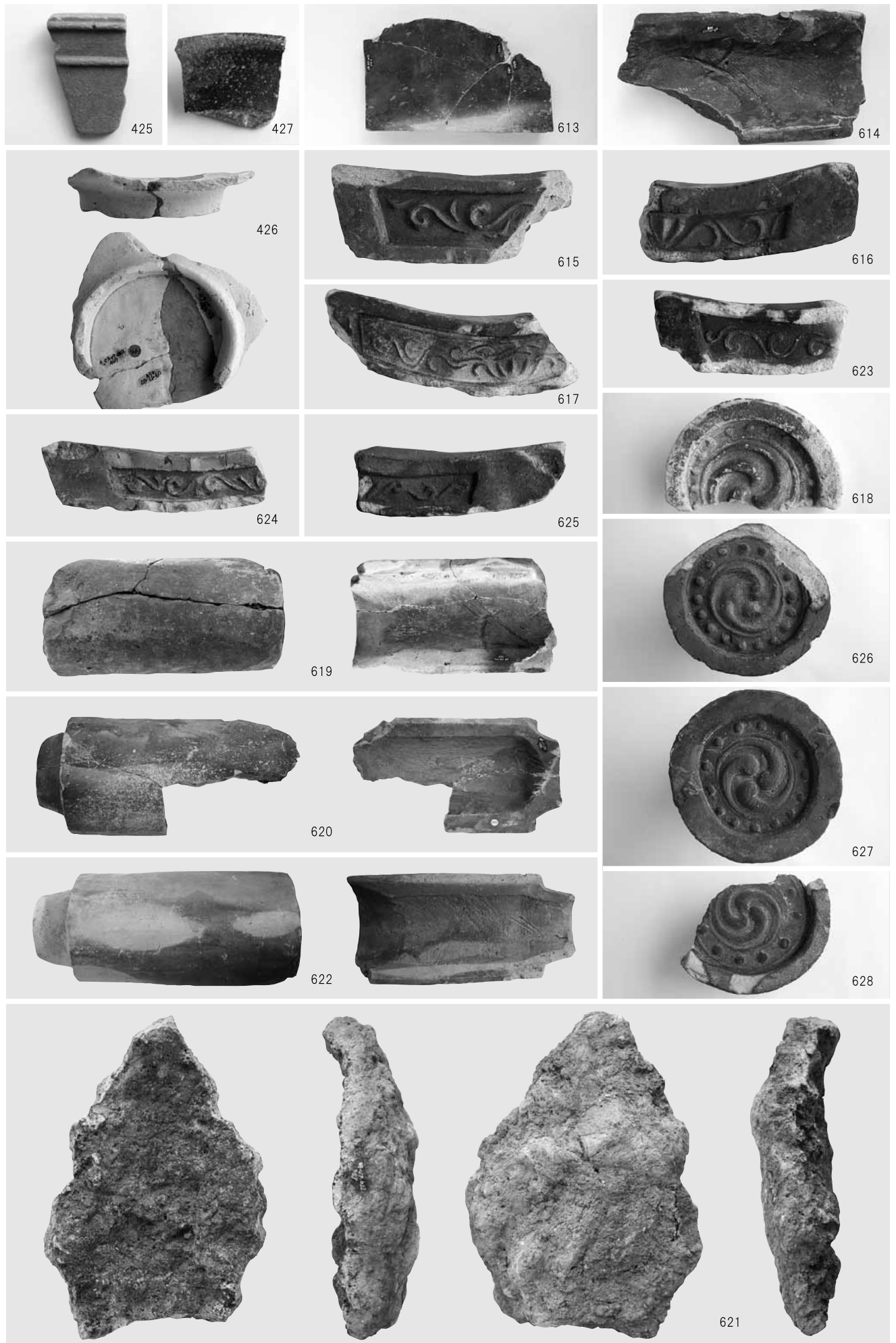
371 ～ 377: 第 11 層系b・c堆積土H7-n7 一括



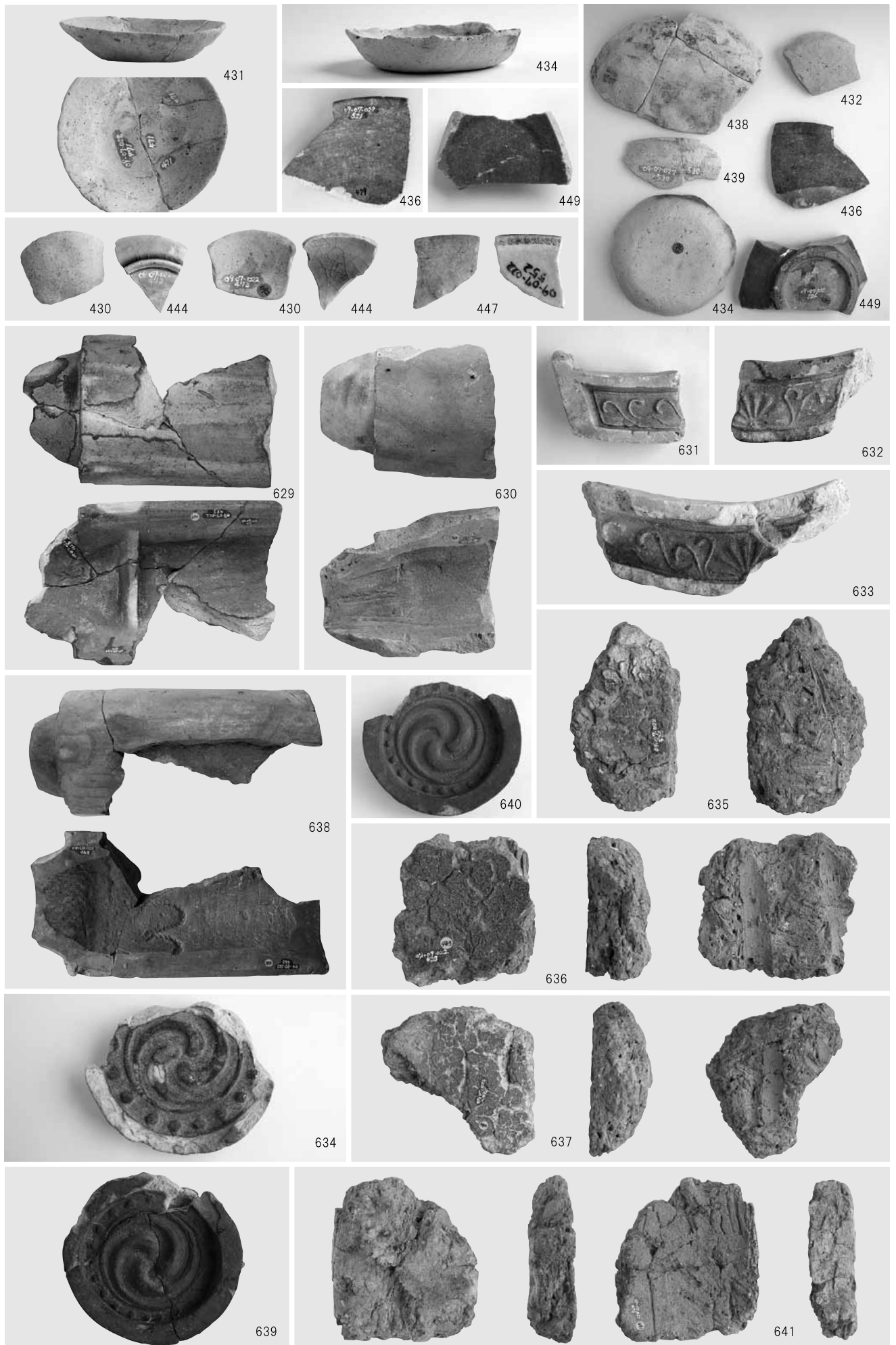
384～393・395～397: 第11層系b・c堆積土H7-o7一括、401～403・408・410～415・417: 第11層系堆積土より下位堆積層、409: 第Vb面遺構 98W柱穴、416: 第V面 96落ち込み(第9層系堆積土)



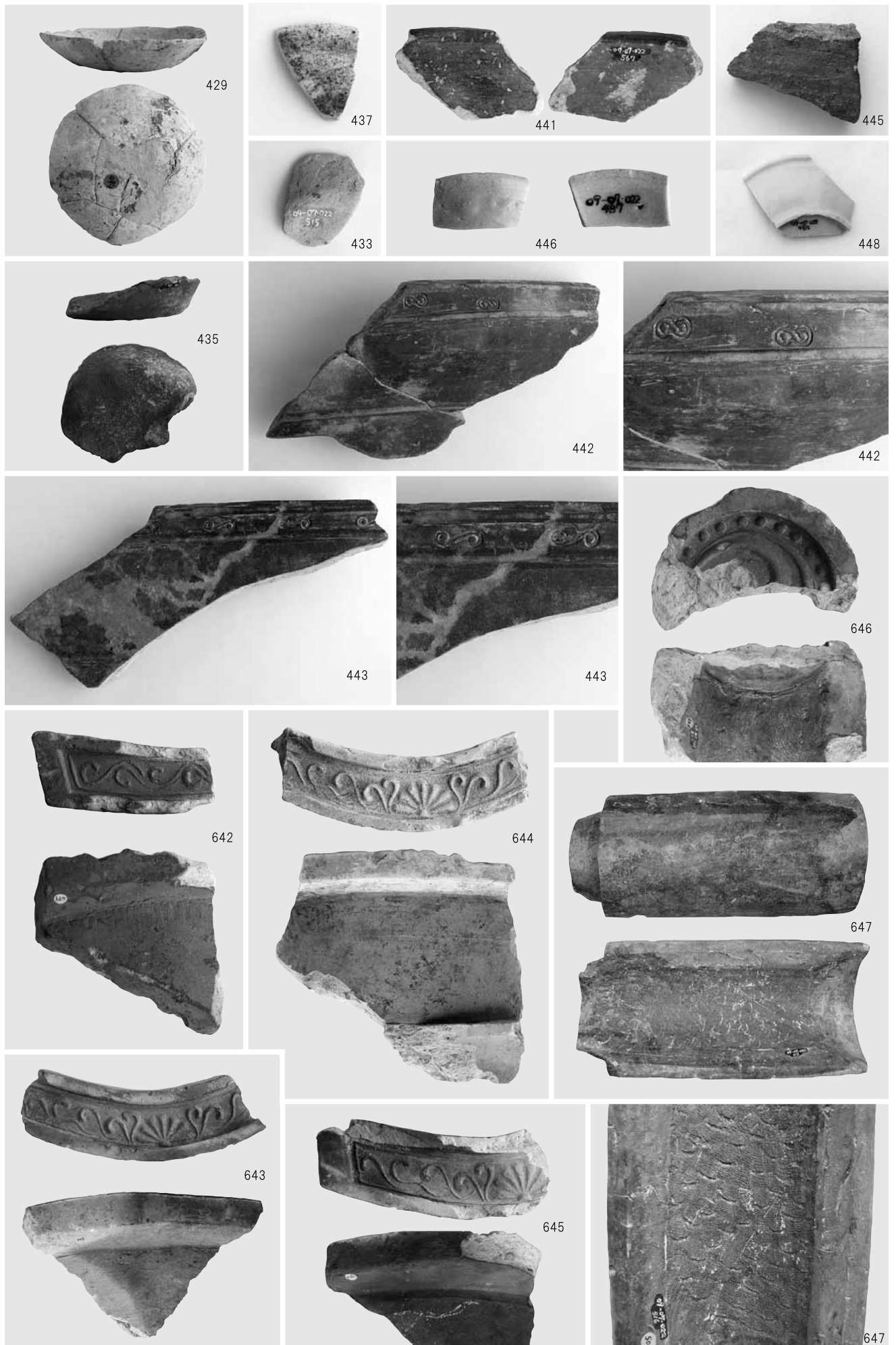
418: 第Ⅰb面遺構 108 暗渠排水溝、419～421・602: 第Ⅰ面遺構 107 集石遺構、422・423・605～609: Ⅱ区東側第3層系整地土、424: 青灰色粗砂礫層（第Ⅲ面对应? 堆積層）、601: 第Ⅰ面遺構 104 土坑、603・604: 第Ⅰ面遺構 102 溝状遺構、610・611: 青灰色粗砂礫層（Ⅰ区 81 護岸对应か）、612: 青灰色粗砂礫層上位（第Ⅲ面对应）



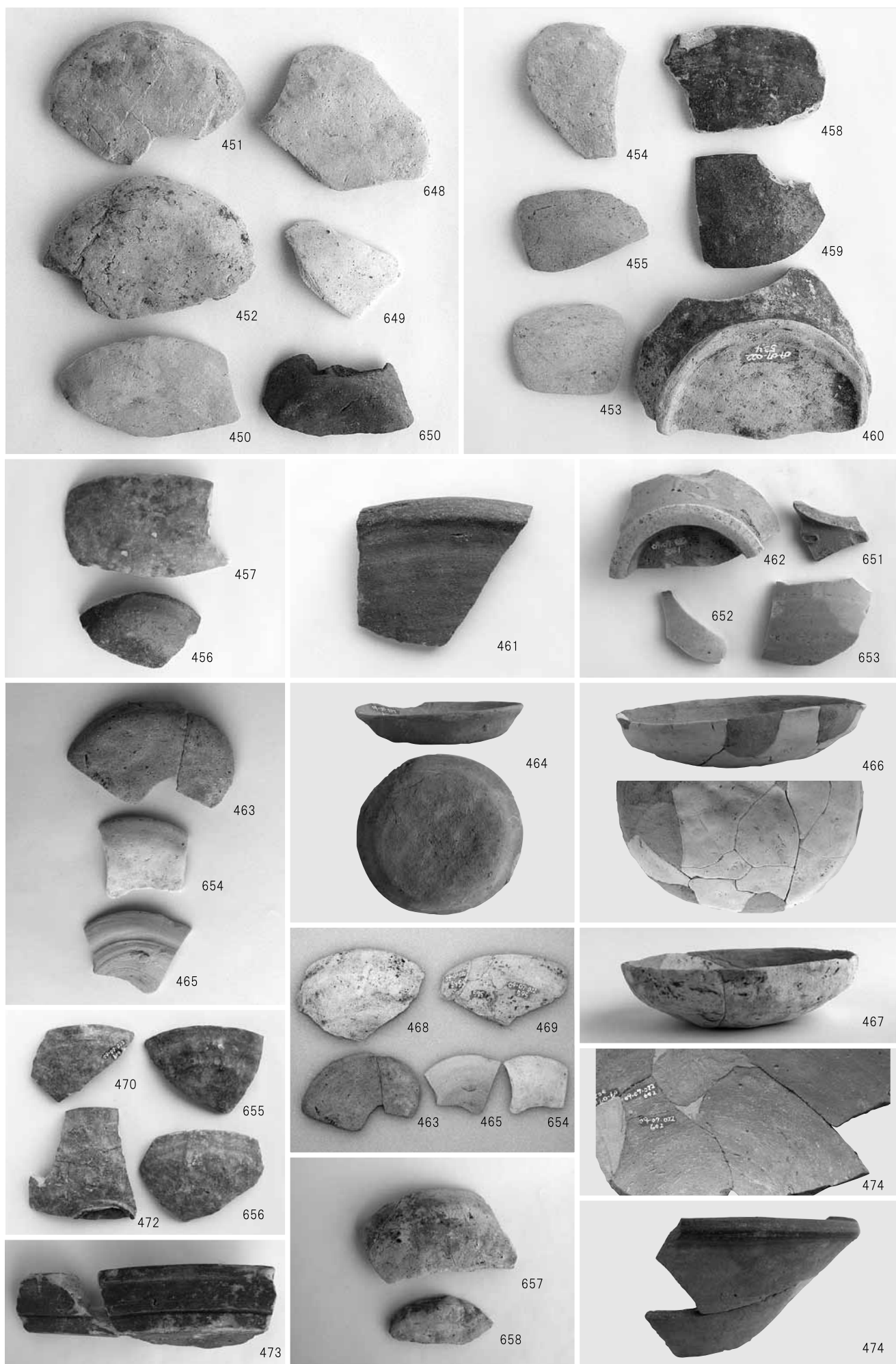
425: 青灰色粗砂礫層、426・427: Ⅱ区西側 青灰色粗砂礫層上位 (第3層系整地土)、613～621: Ⅱ区東側 青灰色粗砂礫層上位 (第3層系堆積層)、622～626・628: Ⅱ区西側 第3層系整地土粗砂層含む、627: Ⅱ区西側 第3層系整地土粗砂層含む (112 石列北際)



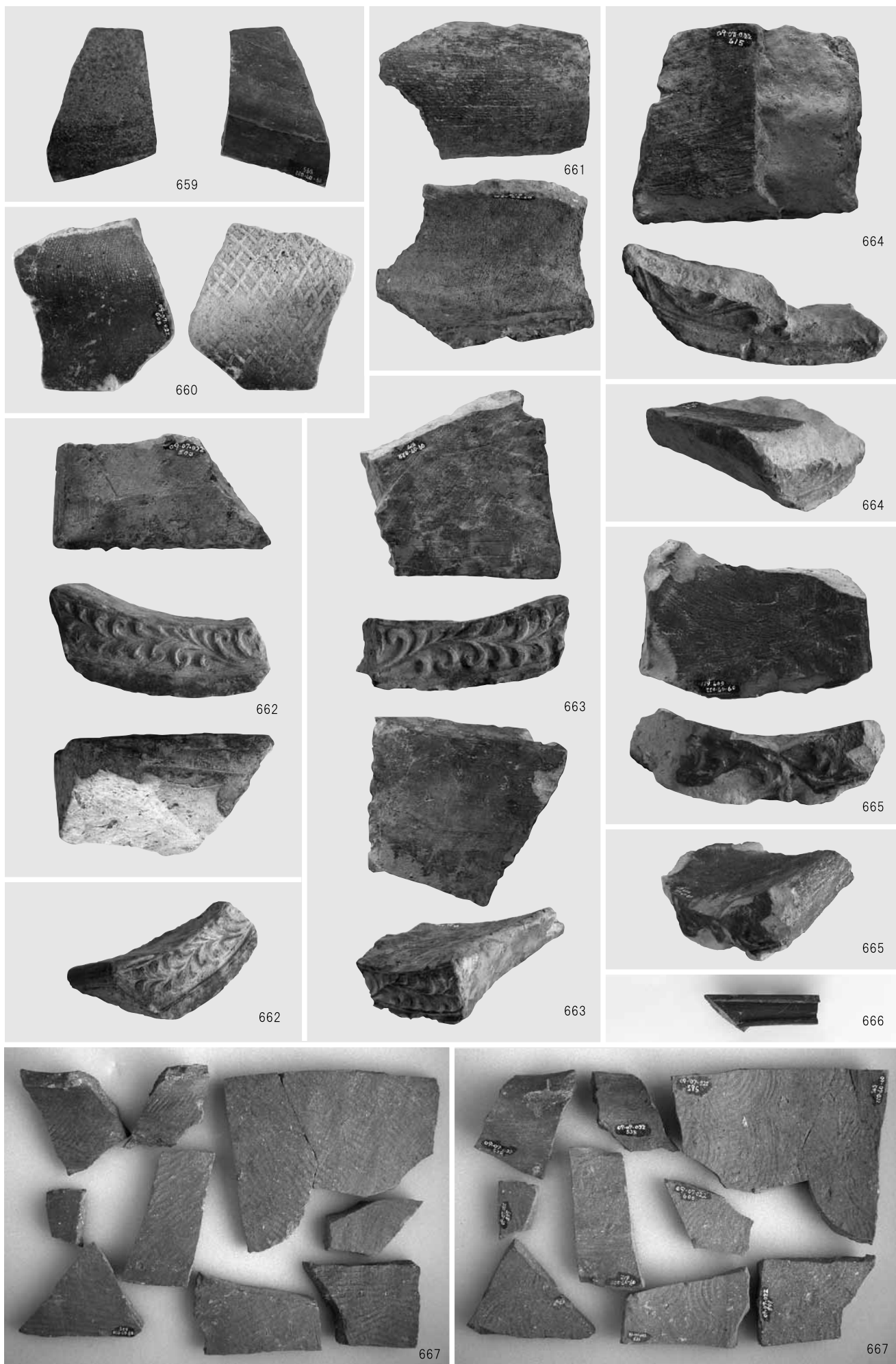
430: 第Ⅲ面遺構 112 石列直下堆積層 (青灰色粗砂礫層)、431: 第Ⅲ面遺構 112 石列北際堆積層 (青灰色粗砂礫層上位)、432・434・436・438 ~ 440・629 ~ 637: 第Ⅲ面遺構 111 塀基礎中込め、638 ~ 641: 112 石列北際整地層 (第3層系整地土 腐植土含む)



第Ⅲ面遺構 429・448:112 石列犬走り直上、433:129 排水溝埋土上位、435:112 石列犬走り直下堆積層、437・642～646:112 石列犬走り石列内一括、441:111 塀基礎・112 犬走り直下堆積層、442・443:129 排水溝最下層、445:114 土坑埋土最上位、446:117 土坑、647:129 排水溝石組内



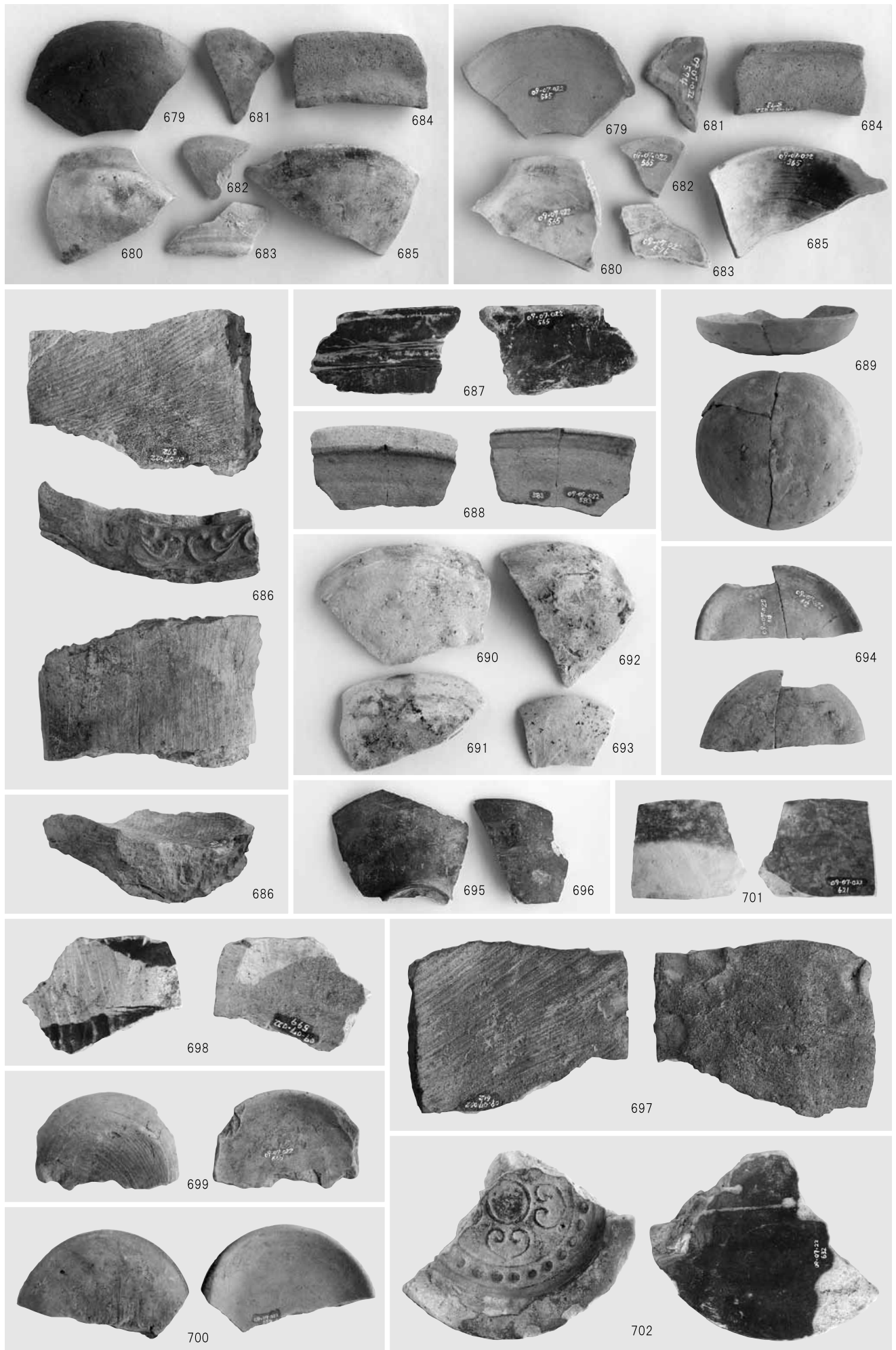
450～452・456・457・461・462・648～653: 第5・6層系整地土(一部第7層系含む)、453～455・458～460: 第4a層系整地土、463～470・472～474・654～656: 第7層系整地土、657・658: 第7層系整地土下位



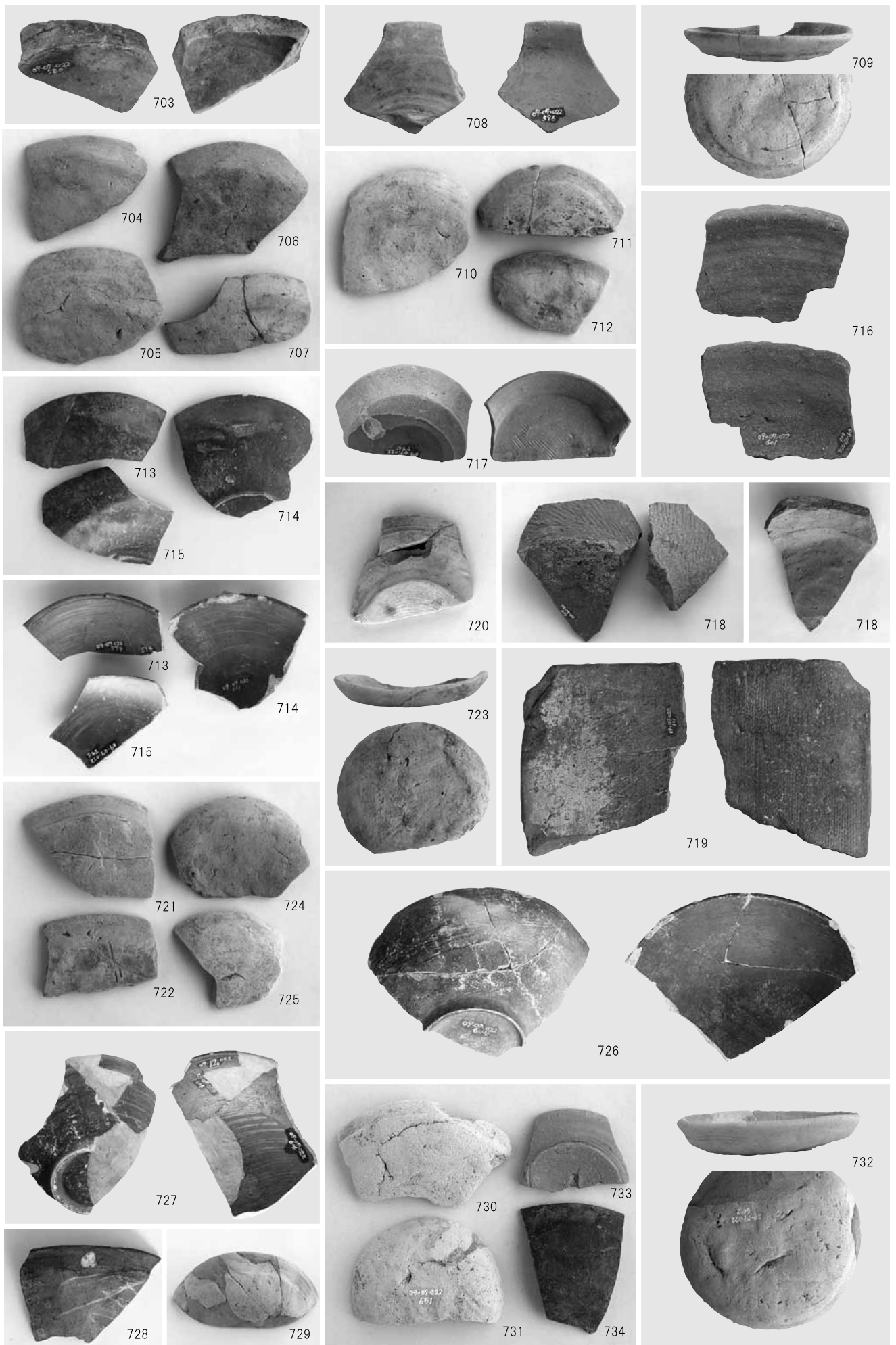
659～662・664～666: 第7層系整地土、663: 第7層系整地土（一部第5・6層系含む）、667: 第5・6層系整地土（一部第7層系含む）



475～481:Ⅱ区東側 第Ⅲ面对应以下(青灰色粗砂礫層)、482・484:Ⅱ区西側 第Ⅲ面对应以下(青灰色粗砂礫層)、483・485:Ⅱ区西側 第Ⅲ面对应以下(黄褐色粗砂礫層)



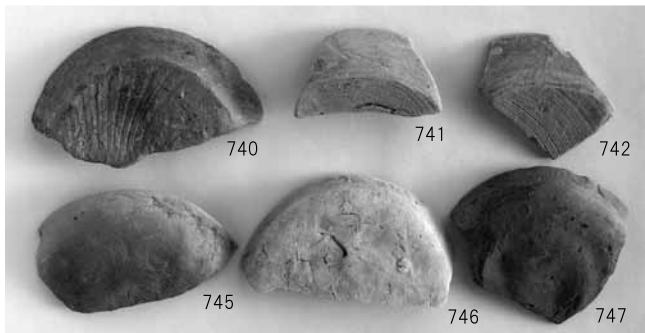
第Ⅳ面遺構 679・680・682・685・687・131 護岸石積直上、681・684・131～133 護岸石積直上、683・133 護岸石積直上、688・131～133 護岸石積内（第9層系堆積土）、689・135 配石内堆積土、690～692・135 排水溝西側石組排水溝内埋土、693・135 排水溝掘形内埋土、694・696・697・135 配石内堆積土、695・698・134 集石直下の135配石、699・139 排水溝掘形埋土、700・702・139 排水溝内埋土、701・139 配石内



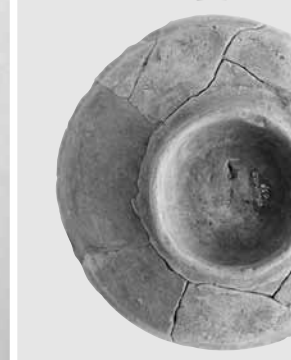
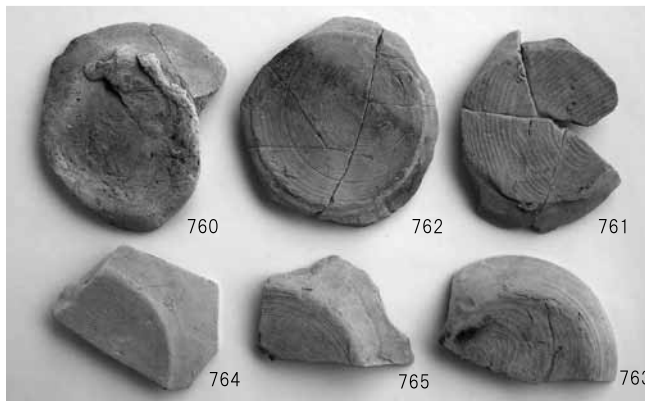
703・704・709・715: 第Ⅳ面对应以下(黄褐色粗砂礫層以下)、705～708・710～714・716～719:131～133 護岸石積直下堆積層(第Ⅳ面对应以下 青灰色粗砂細礫層 第11層系堆積土含む)、720・721・723～728: 第Ⅴ面对应(第9層系以下 第11層系堆積土 黒灰色泥砂粗砂以下含む)、722: 第Ⅳ面对应以下(141 護岸石積より下位 第9層系より下位)、729～734: 第Ⅴ面对应以下(第7層系整地土下半 一部第9層系堆積土含む)



Ⅱ区西側 第Ⅴ面对应以下 第9層系より下位・第11層系堆積土一括土器群集合



Ⅱ区西側 第Ⅴ面对应以下 第9層系堆積土・第11層系堆積土一括土器群集合



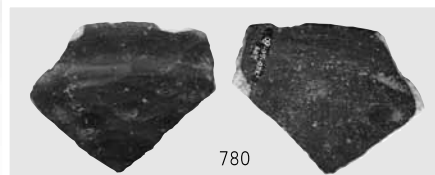
735～752:Ⅱ区西側 第Ⅴ面对应以下 第9層系堆積土より下位・第11層系堆積土、753～768:Ⅱ区西側 第Ⅴ面对应以下 第9層系堆積土・第11層系堆積土



第Ⅴ面遺構 150 土坑埋土一括土器群集合



779



780



769



770



772



773



774



775



776



777



778



776

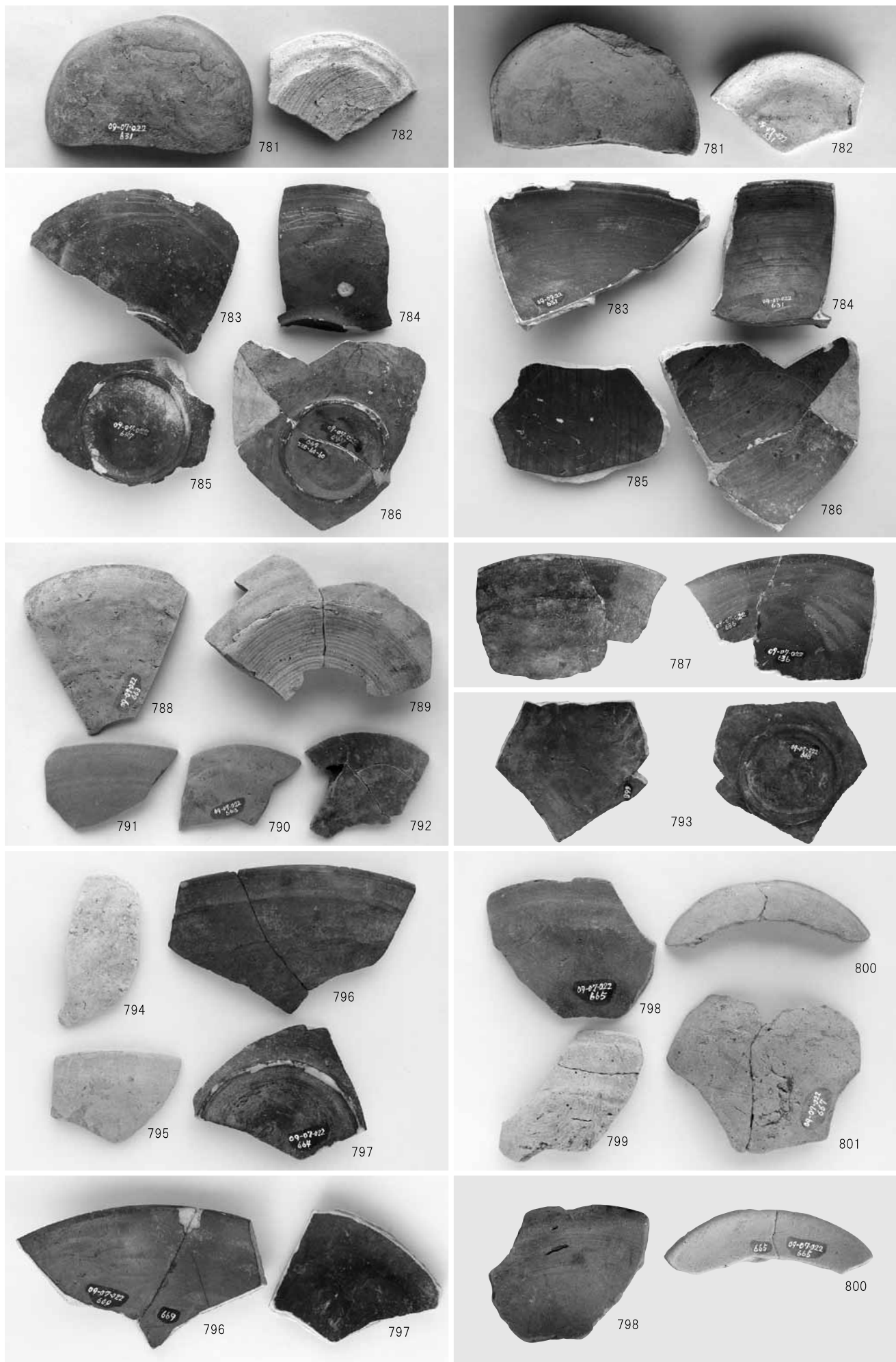


773

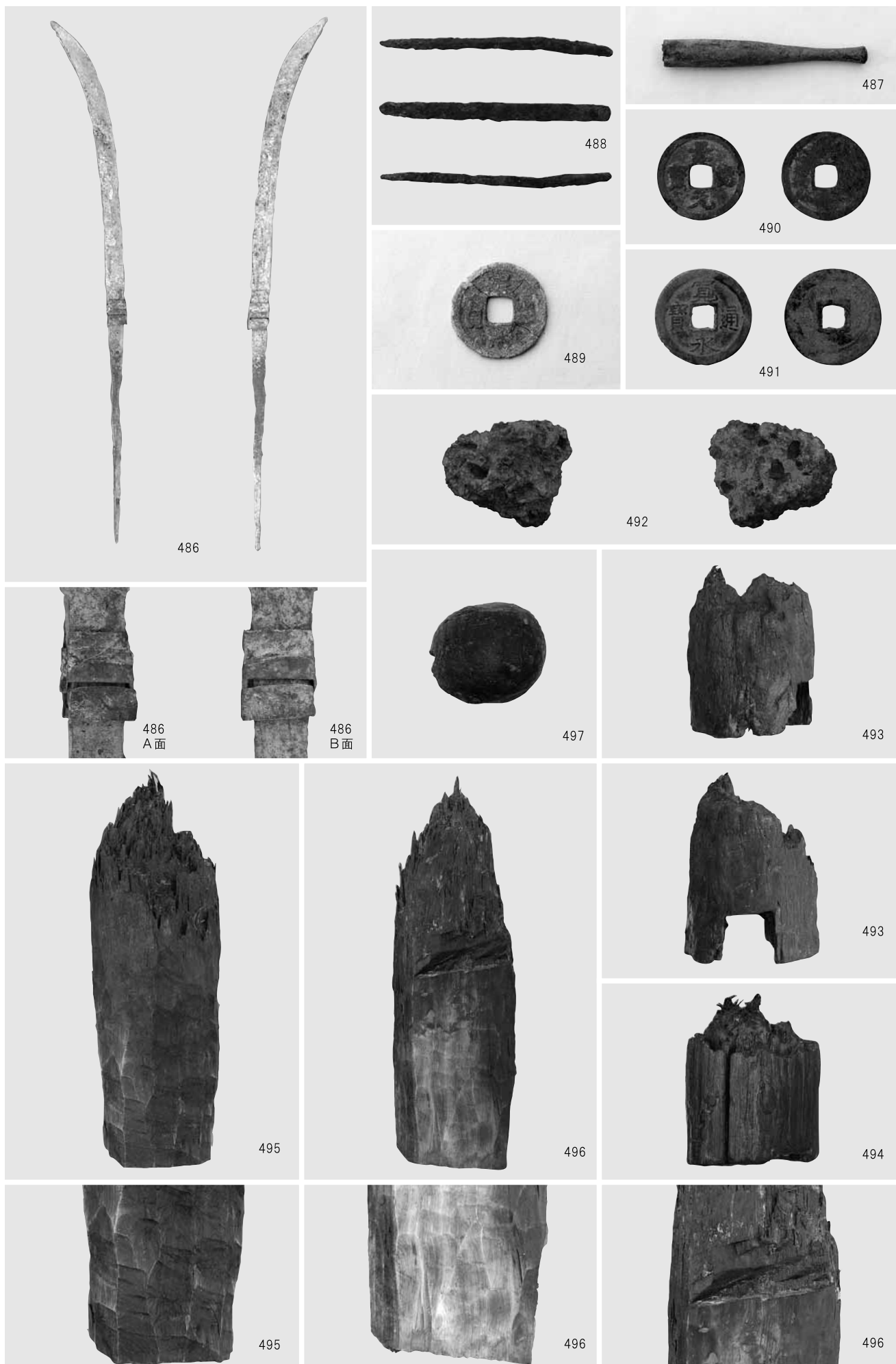


774

769 ～ 780: 第Ⅴ面遺構 769・770・772 ～ 780:150 土坑埋土一括 (内、769・770・779・780 は、「屋敷地側 堆積層 (第Ⅴ面对应以下 第9層系堆積土・第11層系堆積土)」として取り上げ)



781 ～ 787: 第Ⅴ面对应以下 (第 11 層系堆積土より下位層 青灰色粗砂礫層)、
第Ⅵ面遺構 788 ～ 793:151 橋脚掘形埋土一括、794 ～ 797:153 橋脚掘形埋土一括、
798 ～ 801: 第Ⅵ面对应以下 (青灰色粗砂礫層)



486: II区 第1層系土、487: I区第I面遺構 7土坑、488: II区第III面遺構 111 堀基礎・112 犬走り直下、489: II区第4a層系整地土、490: II区第III面对应 青灰色粗砂礫層、491: I区第Ib面遺構 20 上部堀基礎裏込め崩れ、492: I区第III面遺構 61 下部堀基礎中込め、493: 第Vb面遺構 98E 柱穴、494: 第Vb面遺構 98W 柱穴、495: II区第VI面遺構 151 橋脚、496: II区第VI面遺構 153 橋脚、497: 第IV面对应以下 131 ~ 133 護岸石積直下

全て、保存処理前

図 65・66 に対応

(489・492・497 写真図版のみ)



1 Ⅲ区 左岸調査地全景(第3・4層まで掘削状況:西南西から)



2 Ⅲ区 左岸調査地全景
(無遺物層まで掘削状況:北から)



3 Ⅲ区 左岸調査地 第1セッションベルト断面土層
(第3・4層まで掘削状況:南西から)



4 Ⅲ区 左岸調査地 第2セッションベルト断面土層
(無遺物層まで掘削状況:南西から)



5 Ⅲ区 左岸調査地南東壁断面土層
(無遺物層まで掘削状況:北西から)



1 Ⅲ区 右岸調査地全景(無遺物層まで掘削状況:南から)



2 Ⅲ区 右岸調査地全景
(無遺物層まで掘削状況:南南東から)



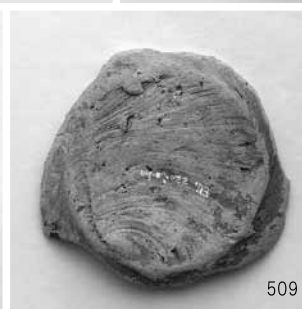
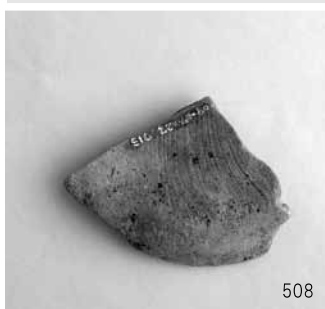
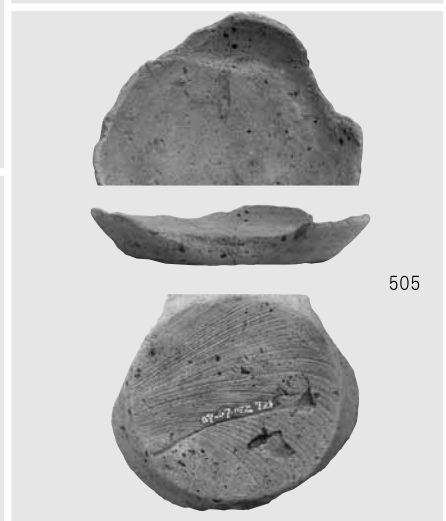
3 Ⅲ区 右岸調査地北西壁断面土層
(無遺物層まで掘削状況:南東から)



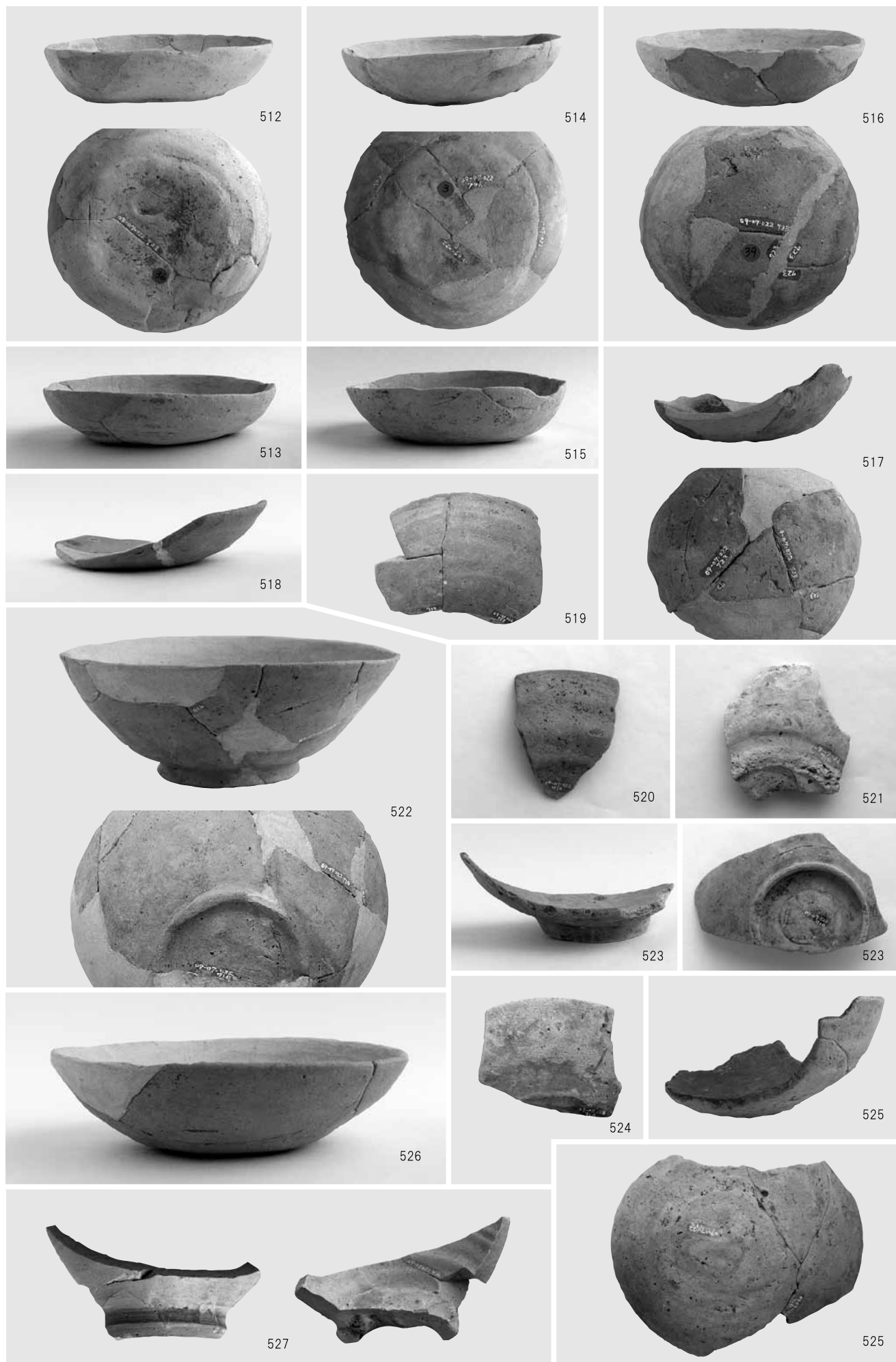
4 Ⅲ区 調査前の状況(南西から)



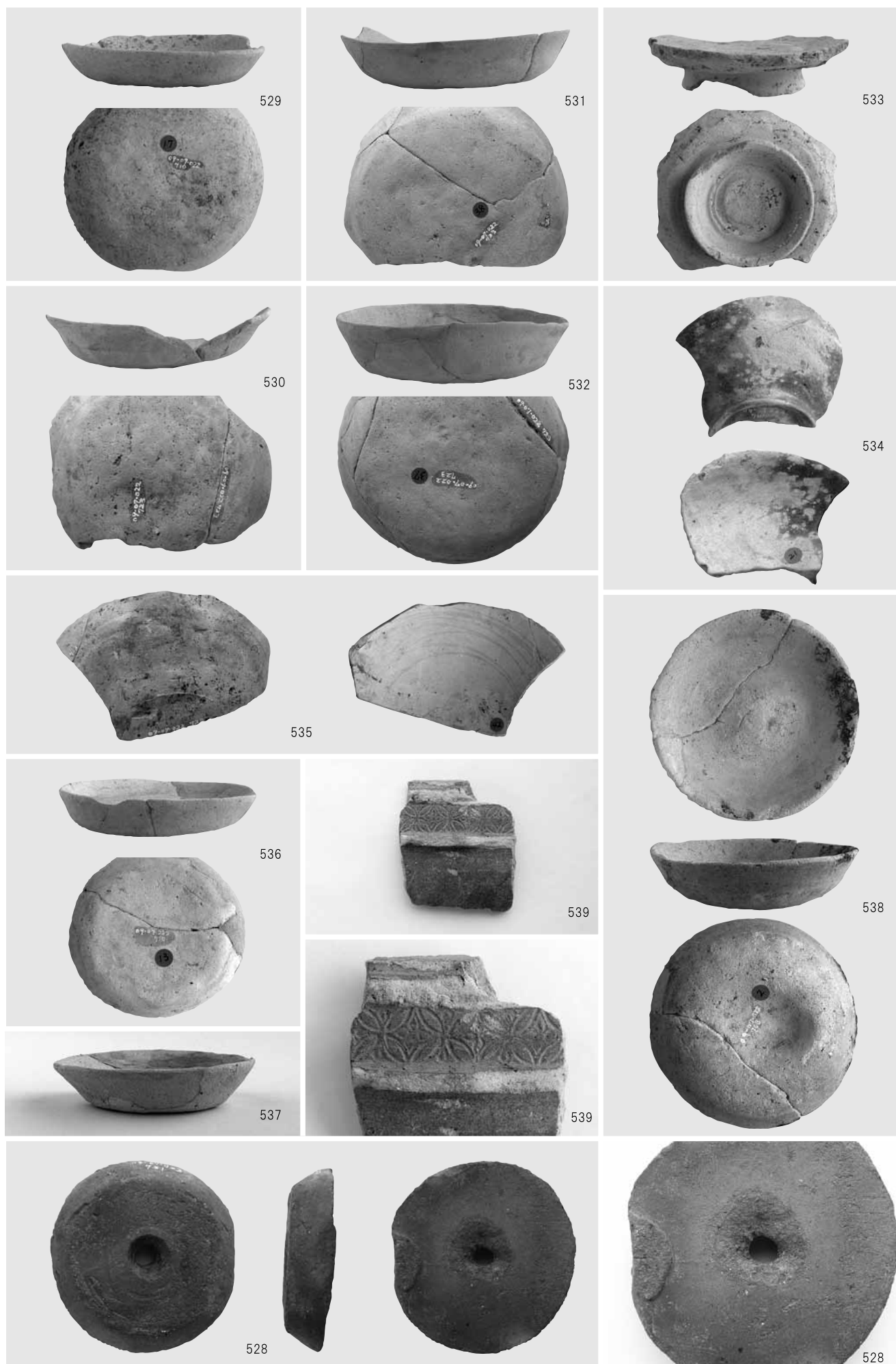
5 Ⅲ区 竣工後の仮設復旧状況(南西から)



498 ～ 502・505・506・510・511: 第3層系堆積土 (505: 遺構下段)、503・504・507 ～ 509: 第4層系堆積土 (川法面)



512 ~ 518・520 ~ 523・525 ~ 527: 第3層系堆積土 (514・515・518: 遺構下段)、519: 第4層系堆積土 (川法面)



528 ～ 539: 第3層系堆積土 (528・538・539: 遺構下段)

報告書抄録

ふりがな	こかわでらいせき							
書 名	粉河寺遺跡							
副 書 名	長屋川通常砂防工事に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	土井孝之・富加見泰彦							
編集機関	財団法人 和歌山県文化財センター							
所在地	〒640-8404 和歌山市湊571-1 TEL 073-433-3843							
発行年月日	西暦2011年 2 月 8 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
こかわでらいせき	わかやまけん きのかわし こかわ	30208	粉河地区 22	34° 16′ 39″	135° 24′ 30″	第2次調査 20090728～ 20091218	340	長屋川通 常砂防工 事
粉河寺遺跡	和歌山県 紀の川市 粉河					第3次調査 20101104～ 20110107	116	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
粉河寺遺跡	寺院跡	平安時代	特になし		土師器(碗・坏・皿)、黒色土器(碗・坏)、銅銭		少量ながら、纏まりのある遺物群である。	
		鎌倉時代	護岸石積、排水溝、橋脚、門柱、木杭列		土師器(碗・皿・小皿・土釜)、瓦器(碗・小碗・皿・鉢・甕)、陶器(備前擂鉢)、磁器(青磁碗、白磁壺・碗)、瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦)など		瓦器の内、小碗・小皿形態が極めて低い比率を示す。	
		室町時代	護岸石積、排水溝、木杭列		土師器(皿・小皿)、瓦質(火舎・盤・香炉)、陶器(備前擂鉢)、磁器(青磁碗、白磁碗)、瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦)など		遺物全体の中では、比率的に少ない段階である。	
		江戸時代	護岸石積・塀基礎、礎石列、排水溝、掘立柱列、土坑		土師器(皿・焙烙)、瓦質(火舎)、陶器(瀬戸美濃、肥前系碗・鉢)、磁器(肥前系碗・皿)、瓦(軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦・棧瓦・鬼瓦)、銅銭など		18世紀前後の肥前系陶磁器を主体とする。	
要約	<p>I区では計8面の遺構面を確認し、その内、5面について平面的な調査を行った。II区では計7面の遺構面を確認し、その内、5面について平面的な調査を行った。</p> <p>遺構は、鎌倉時代の根固め石を伴う橋脚・木杭列、鎌倉・室町時代の各遺構面において石積護岸・石組溝・土坑を、江戸時代では、塀基礎・石積護岸・石組溝・土坑などを検出した。また、I・II区において、T.P.=53.00m以下の河川堆積層においても鎌倉時代の遺物の出土を確認した。III区では、遺物包含層の検出のみで、遺構は確認されていない。</p> <p>出土遺物の大半は、主に各地区の屋敷地側整地土層や河川自然堆積層から出土した鎌倉・室町時代の土器類、鎌倉時代から江戸時代にかけての様々な瓦類で占められる。出土遺物には、土師器・瓦器・東播系須恵器・陶器・磁器、瓦、石造物、石製品、金属製品、木質遺物、自然遺物などがある。その他、特筆すべきものとして、古墳時代後期の須恵器1点、平安時代の土師器・瓦、室町～江戸時代の遺物に混じって、溶解炉の破片1点・粗型の破片数点が出土している。III区では、平安時代後期の遺物がまとまって出土した。</p> <p>遺物内容から見て今回の調査地では、11世紀代・12世紀前半・13世紀後半・14世紀後半～15世紀前半・15世紀後半～16世紀前半・18世紀中葉～後半・19世紀に大きな画期のあることが判明した。</p>							

粉河寺遺跡

－長屋川通常砂防工事に伴う発掘調査報告書－

発行年月日：2011年2月8日

編集・発行：財団法人和歌山県文化財センター
和歌山県和歌山市湊571-1

印刷・製本：白光印刷株式会社
和歌山県和歌山市雑賀崎2021-3